

2007年度

講義計画

桃山学院大学

画

計

義

講

科目名			
音声学・音韻論			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	秋学期集中	4単位	南 條 健 助

【講義概要・学習目標】

音声学 (phonetics) とは、音声を科学的に研究する言語科学 (linguistic sciences) の一分野であり、同時に、あらゆる音声を正確に聞き分け、かつ発音し分けることができる、いわば職人芸 (art) でもある。また、イギリス学派音声学 (British school of phonetics) では、音韻論 (phonology) も音声学の一部であると見做される。

この授業では、イギリス学派の伝統である実践音声学 (practical phonetics) というやり方によって、標準的なアメリカ英語とイギリス英語の音声を、主として調音 (articulation) の面から研究する。実践音声学の手法を用いるためには、まず初めに、たとえ日本人であっても、英米人と区別がつかないくらい、英米人そっくりの発音ができる技能を身につけなければならない。授業では、どうすればそういう発音ができるようになるのかを詳しく解説し、そのための音声学訓練 (phonetic training) に多くの時間を割くつもりである。また、そのような訓練と並行して、毎回少しずつ音声の理論と英語の音声事実を勉強してゆくことにしたい。

【講義計画】

1. 入門編
2. 強勢とリズム
3. 音調
4. 音のつながりと音変化
5. 子音
6. 母音
7. 発展編

【成績評価の方法】

原則として、定期試験 (80%) と提出課題や小テスト (20%) を総合して評価する。定期試験では、欠かさず授業に出席して、きちんとノートを取っていないならば解答できない問題を出題する。また、8回以上欠席した者には、定期試験の成績にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする学生には即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。

【教科書】

開講時まで指定する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

【備考】

<02~06生>

E・S・S・S・W・B・J生は、日本語教員資格科目 (随意) として履修

科目名			
会計学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	秋学期	2単位	谷 武 幸
02	秋学期	2単位	谷 武 幸
03	秋学期	2単位	全 在 紋
04	秋学期	2単位	全 在 紋

【講義概要・学習目標】

「会計」(accounting) は「企業の言語」(language of business) と言われる。日本人なら日本語で話し、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person) は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功 (出世) もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話を伝授する。

〈学習目標〉

企業の言語の基本的な会話力を身につけるため、以下を学習目標とする。

- (1) 資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
- (2) 企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
- (3) 企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
- (4) 経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

【講義計画】

テキストの目次は次の通りであるが、進行状況を勘案して講義する。

- 第1章 会計とは?
- 第2章 基本的な会計情報とは?
- 第3章 決算書の情報を分析するには?
- 第4章 税金はどのように計算するのか?
- 第5章 コストと会計情報とはどのように結びつくのか?
- 第6章 経営管理に会計情報をどう役立てるのか?
- 第7章 財務諸表は本当か?
- 第8章 決算書の内容や様式はどのように決まるのか?
- 第9章 会計は職業とどう結びつくのか?

【成績評価の方法】

授業の出席状況、課題 (宿題) の達成状況、および筆記試験の総合点で評価する。

【教科書】

小林哲夫・全在紋・朴大栄 (共編著)

『まなびの入門会計学』(中央経済社) 【毎時間必携】

【参考文献】

参考資料は適宜配布します。

【備考】

この授業は、正当な理由 (電車の延着その他) がない場合、開始10分以降の入室を禁じます。

科目名			
会計学原理			
クラス	講義区分	単位数	担当者
	春学期集中	4単位	中村恒彦

【講義概要・学習目標】

本年度の会計学原理では、会計理論の歴史、会計学の方法論、最新の会計理論、国際会計と幅広い項目について学習します。学習内容が非常に高度であるため、ひとつひとつの理論をゆっくりと学習していく予定にしています。また、財務諸表論や簿記関連科目と重複する部分が多いので、関連科目を履修することをお勧めします。

最後に、この講義を通じて、論理的な考え方がどのようなものかについて理解が深まればよいと思います。論理的な考えた方に固執することはいけませんが、自分の視野を広げるためにも論理的な考え方が必要となります。会計学者や会計士や企業の財務担当者が考える論理の世界について体感していただければよいと思います。

【講義計画】

1. 会計理論の発展
2. 会計学の方法論
3. 利益概念
4. 財務諸表
5. 財務諸表
6. 国際会計

【成績評価の方法】

期末試験（100点）＋出席点・レポートなど（50点）

【教科書】

加古宜士+大塚宗春 [2004]『財務会計の理論と応用』中央経済社。
テキストは、かならずしも購入する必要はありません。

【参考文献】

中野常男 [1992]『会計理論生成史』中央経済社
友岡賛 [1996]『歴史にふれる会計学』有斐閣アルマ

【備考】

<02～06生>

共通自由科目として、B生対象外

B生は学科教育科目

科目名			
介護演習			
クラス	講義区分	単位数	担当者
01	春学期	2単位	金津春江
02	春学期	2単位	川井太加子

【講義概要・学習目標】

加齢や心身の障害を持ちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるということを基本に、介護技術について、その原理原則、基本を踏まえた方法を学ぶ。授業は講義及び演習の形態をとり、単元ごとに一定の講義により必要事項の説明及び関連事項の知識的整理をし、技術の基本部分に関する知識の定着をはかる。その上で技術の提供方法等に関するデモンストレーションによって知識の具体化をはかり、演習によって具体的援助方法の習得をはかる。

【講義計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、介護とコミュニケーション
- 3、観察
- 4、日常生活援助に必要な介護技術
- 5、医療上の対応
- 6、緊急時の対応
- 7、介護過程の展開

【成績評価の方法】

授業出席状況、授業への参加度、技術の取得度、レポートなどで総合的に評価します。

【教科書】

指定しません。

【参考文献】

適宜授業で紹介します。

科 目 名			
介護概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	金 津 春 江
02	秋学期	2単位	川 井 太加子

【講義概要・学習目標】

- 1 介護の役割を理解するとともに、看護・医療との関係について理解する。
- 2 具体的な介助方法の実際について演習形式で学ぶ。
- 3 高齢者の身体的および精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に対処できる能力を養う。

【講義計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 介護の機能および範囲
- 3 加齢に伴う心身の変化
- 4 高齢者体験・車椅子体験などの演習
- 5 介護専門職と保健・医療専門職との連携
- 6 介護技法
 - 1) 身体の自然な動き
 - 2) 食事
 - 3) 排泄
 - 4) 移動
- 7 コミュニケーション技法
- 8 痴呆高齢者の理解と介護
- 9 ターミナルケア

【成績評価の方法】

出席、レポート、試験で総合的に評価します。

【教科書】

社会福祉士養成講座14介護概論（中央法規）

【参考文献】

適宜授業で紹介いたします。

科 目 名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	山 崎 充 彦

【講義概要・学習目標】

ると考え、歴史学習とは、年号と歴史的事件を暗記すればよいと思っている人がいるかも知れない。だが、歴史は年号の羅列ではないし、歴史研究・歴史学習とは決して暗記だけで以てこと足りるものでもない。諸君らが、「歴史的事実」と確信していることであっても、その評価や位置づけは時代や人によって様々に変わることも稀ではない。

この講義では、まず、担当者が、「歴史的なものの見方とは何か」について述べ、歴史の研究・解釈が研究する者の立場に依拠する実例を挙げて、「歴史研究の持つ危うさ」を指摘するところから始める。

【講義計画】

- ・担当者の講義

総論：

- 1、歴史研究の持つ問題性
- 2、ヨーロッパ中心史観の問題性
- 3、現代史をどう解釈するか。
- 4、歴史学における「政治的なもの」

各論：

- 5、ヨーロッパにおける反ユダヤ主義の歴史
- 6、ナチのユダヤ人政策の背景とその実態
- 7、ユダヤ人大量虐殺をめぐる戦後の論議
- 8、「ナチズム」と「イタリア・ファシズム」、ヒトラーとムッソリーニ

・ビデオ上映：

歴史教育、ナチズムなどに関するビデオを複数回観てもらおう。

【成績評価の方法】

成績評価は、定期試験のみで行う。

この講義では、出欠調査は一切行わない。従って、出席カード配布だけを目当てに教室に来て時間と労力の無駄に終わるであろう。

授業中の私語、携帯電話等の使用、居眠り、漫画などを読むことは絶対に許さない。

近年、受講者数の増加に伴い、受講態度の悪化傾向も顕著となっており、担当者としては、極めて憂慮すべき事態であると考えている。

講義を真摯に聴こうとする者のみ、登録・履修され、教室に来るように真剣に望む。

受講態度が悪い場合、退室を命じることもあるので十二分に、留意・覚悟して、登録してもらいたい。

【教科書】

特定の教科書は使用しない。

【参考文献】

授業中に随時紹介するが、さしあたり、以下の文献を挙げておく。

- ・栗原優、『ナチズムとユダヤ人絶滅政策—ホロコーストの起源と実態』、ミネルヴァ書房
- ・ハーバーマス、ノルテ他著、『過ぎ去ろうとしない過去』、人文書院

科 目 名			
外国史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4単位	山 田 義 顕

【講義概要・学習目標】

テーマ：ヨーロッパ史の諸問題。
ヨーロッパの中世、近代、現代にわたっていくつかの問題を設定し、そこにみられる「ヨーロッパの光と影」「ヨーロッパの拡大」「ヨーロッパの没落」などについて理解を深める

【講義計画】

春学期は主として中世と近代を扱う。主な内容は「中世のスポーツ」「黒死病」「魔女」「奴隷貿易」「宗教改革」「産業革命」などを予定している。

秋学期は19～20世紀を扱う。主な内容は「ナショナリズムと帝国主義」「第一次世界大戦」「ヴェルサイユ体制」「ヒトラーの時代」「第二次世界大戦」などを予定している。

【成績評価の方法】

通期科目であるが、試験は春学期と秋学期の2回に分けておこない、出席点を加えて総合的に評価する。

【教科書】

講義のたびにプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて講義中に提示する。

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4単位	一ノ瀬 篤

【講義概要・学習目標】

伝統を誇るロンドンの経済新聞「Financial Times」紙から、日本関係の経済記事を選んで、解説を加えつつ読んでいく。

【講義計画】

はじめの2、3度は講義担当者が報告する。その後、同様の要領で受講者に順次、報告してもらう。1回に1記事程度。

【成績評価の方法】

出席、質問・発言、報告、期末試験を総合評価する。

【教科書】

Financial Times 最近の日本経済関連記事

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
12	通期	4単位	田 村 剛

【講義概要・学習目標】

マスツーリズムに代表される従来の観光は、特に目立った産業のない国においては外貨獲得手段となり、経済的な繁栄をもたらしてきたが、それと同時に環境破壊など様々な問題も引き起こしている。

そこで、こうした問題点を克服するとされる新しい形態の観光として、エコツーリズムが注目され、これに関係する様々な取り組みが行われている。

本外国書講読では、オーストラリアの事例を通じて、エコツーリズムの概念やその取組内容について吟味していく。またテキストの輪読を行うことにより、英語の読解力を高めることも目標とする。

【講義計画】

テキストの順序に従い、1授業あたり2～3ページ程度を数人で分担し、順番に翻訳を行ってもらい、その都度解説を加える形で進める。なお、発表者がわからなかった箇所については、他の人に答えてもらうので、参加者は予習が必要となる。

【成績評価の方法】

出席状況、翻訳の出来具合、発言などを考慮して総合的に評価する。

【教科書】

プリントを配布する

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
13	通期	4単位	石 黒 亜 維

【講義概要・学習目標】

「東アジア共同体」構想が具体的に議論されつつある今日、その中でも特に日本と中国の関係は特に重要とされている。その一方で日中間には、歴史認識、経済権益などをめぐってさまざまな問題が存在し、近年「政冷経涼」と評されることもしばしばである。このような状況を中国のマスメディアはどのようにとらえているのであろうか。本講義では、中国で発行されている新聞・雑誌等の記事から、特に日中関係に関する記事を中心に取り上げ講読し、中国に対する理解を深めるとともに、日中間の相互認識の特徴をとらえることを目標とする。

【講義計画】

中国国内で発行されている新聞、雑誌の記事を中心に輪読する。

【成績評価の方法】

筆記試験によるが、授業中の小レポート、出席状況も考慮する。

【教科書】

オリジナル教材として随時配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

か
行

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
14	通期	4単位	道上 真 有

【講義概要・学習目標】

「英語で書かれた経済論文を読みきる！」ことを目標にします。英語力をつけながら経済英文にも強くなる一石二鳥を狙っています。辞書を使いながら時間がかかってもいいので、文法解説もしながらきちんと読んでいきます。いっしょにがんばって挑戦しましょう！

読むものは、最近国際経済で話題になっている出来事や記事、論文を読んでいきます。とくにBRICs（ブリックス）経済についての論文を読みます。BRICs（ブリックス）とは、今後成長が期待される新興経済国のことで、ブラジル、ロシア、インド、中国の4カ国を総称しています。これらの国々の経済についての知識を増やし、今後の日本との関係のあり方について考えるヒントをつかむことを最終目標とします。国際情勢について興味のある人はぜひ受講してください。

【講義計画】

学生たちの英語力を整えるために前半の期間に集中して、まずはBRICsにこだわらず、英語で経済のことがらについてコンパクトに（日本語で400字～800字くらいのもの）解説されたものを、たくさん日本語訳するトレーニングを行います。経済の専門用語など、経済についての英文の翻訳に慣れた後、本格的な英語論文に挑戦していきます。読み物は、学生たちの好みにも合わせますが、まずはDreaming with BRICs: The Path to 2050という論文を読んでいます。その後、BRICs各国について書かれた論文を読み進めていく予定です。

毎回数人に指定した箇所の訳を発表してもらいます。訳の担当者は固定しないので、全員が指定された箇所を次回の講義までに訳してることが課題です。課題が消化不良にならないよう、学生の進歩に合わせて課題量を調整していきます。全員がきちんと課題をこなす習慣をつけることが大切です。

講義中に訳し方の指導や内容の解説を行います。英語論文の内容理解には英語文法だけでなく、日本語の能力や時事問題についての知識を駆使する必要があります。その点をフォローするためにビデオやDVD等を使って理解を深めることもします。ある程度読む力がついてきたら、その内容についての感想や質問等も付け加えて発表してもらいます。

【成績評価の方法】

出席点と学期末のテストで評価します。出席回数が全講義回数（30回）のうち7割5分以上（22回以上）、学期末テスト60点以上で初めて単位認定されます。

出席点とは、課題を毎回やっているかどうかで判断します。訳はまちがっていてもかまいません。自分で毎回きちんと訳しているかどうかを評価します。

この科目は継続することに意義があるので、学期末テストのみでは単位認定はしません。

また講義回数の規定回数以上出席していても、学期末テストの点数が60点以上なければ、単位評価できません。

【教科書】

教員がコピーしたものを配布します。

“Dreaming With BRICs: The Path to 2050”, Dominin Wilson and Roopa Purushothaman, Global Economics Paper, No. 99, 1 October 2003, Goldman Sachs など。

【参考文献】

講義中に紹介しますが、本格的に論文を読むようになれば、『図解 BRICs経済がみるみるわかる本』アジア&ワールド協会編著、PHP研究所、2005年、1575円 が参考になるでしょう。

【備考】

電子辞書でもどんなものでもよいので、英和辞典はかならず持参してください。

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
31	通期	4単位	松本 真 一

【講義概要・学習目標】

分野的には児童福祉領域での英文の資料を用いて、児童虐待や非行、ストリートチルドレン等の福祉課題について研究する。地域（国別）としては、小生が2002～2003年（1年間）の海外研修で訪ねた東南アジアやオーストラリア、カナダ等の文献を主として使用する。英文と言っても誰でも読みやすい初歩的な文献を選ぶことにしたい。東南アジアの悲惨な子どもたちの暮らしや、豪州・北米の進んだ虐待対応等を日本の場合と比較検討することで児童福祉の国際的理解を深めることを目標とする。

【講義計画】

事前に前もって配布された児童虐待や非行、ストリートチルドレン等に関する英文資料をあらかじめ1～2 paragraphsづつ役割分担を課せられた各受講生が順次翻訳し検討する形式（ゼミ形式）で進める。受講生の数にもよるが、1～3週に1回役割分担が課せられるので、その時は着実に役割（責任）を遂行していただきたい。

【成績評価の方法】

①出席、②読解力、③レポートを総合して評価する。

【教科書】

「Child Abuse Prevention Handbook」など
使用する資料をあらかじめ月単位毎にコピーして配布する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
41 42	通期	4単位	隅 田 孝

【講義概要・学習目標】

マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかという事は、事業分野を問わずほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識していなければならない。本講義では、英語文献を通して、上述したマーケティングの核となる概念をしっかりと理解していく。また、マーケティングへの理解はもとより、平行して英語への理解についてもしっかりと学んでいく。特に、英文講読に必要な文法力の鍛錬に多くの比重を置く。TOEFLサンプルを使用し文法解説を行う。よって、受講生の理解度を測りながらマーケティングの理解、英語文献読解力、TOEFL・TOEIC対策などさまざまな目的に対応した講義を行っている。

【講義計画】

毎講義において、前半は文法解説・後半は配布プリントの英文精読を行う予定である。受講生の理解度を考慮して、英文精読は時間をかけてゆっくりと進めていく。

1. グローバル化する経済
2. 格差の拡大
3. 環境の変化
4. 企業の新しい視点
5. マーケティング・コンセプト
6. ニーズ、ウォンツ、ダイヤモンド
7. 製品コンセプト
8. 価値、費用、満足
9. 交換、取引、関係性

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

【教科書】

Kotler, Philip (1994), Marketing Management, 8th. ed., Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて参考文献を指示する。

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
51	通期	4単位	的 場 かおり

【講義概要・学習目標】

「民主主義」「民主政」などという言葉はわたしたちには耳慣れたものである。わたしたちの国・日本も「民主主義」国家であると言われる。しかしあらためて「民主主義とは何か」と問われると、答えに窮してしまうのではないか。

このプリミティブな問いかけに対し、「民主主義」の歴史や意味、機能を考察することが講義の目標である。「民主主義」を相対的に観察することで、「民主主義」が普遍のものでも自明のものでもなく、様々な問題を抱えていることを学習する。

この課題に取り組むにあたり、卓越した民主主義理論家であるロバート・ダールを取り上げる。彼の名著『On Democracy』は絶好の入門書である。本書では、歴史、政治、法、社会など多様な観点から「民主主義」が論じられるため、「民主主義とは何か」という基本的な問いを考えるうえでは多くの示唆を与えてくれる。

【講義計画】

- ① 毎回テキストの該当ページを輪読するという形式をとる
- ② 1学期末には中間テストを、2学期末にはレポートを行なう
- ③ 基本的な英単語の小テストを行なう

【成績評価の方法】

- 1 出席状況 2 講義への参加態度 3 テスト (1学期)
 - 4 レポート (2学期) 5 小テスト
- 以上5つの総合評価から成績をつける

【教科書】

Robert Alan Dahl, On democracy, Yale University Press, 1998.

【参考文献】

- ① J. J. ルソー著 作田啓一他訳『社会契約論』(白水社、1991年)
- ② J. S. ミル著 水田洋訳『代議制統治論』(岩波書店、1997年)
- ③ Carole Pateman, Participation and Democratic Theory, Cambridge University Press, 1970. 寄本勝美訳『参加と民主主義理論』(早稲田大学出版会、1977年)
- ④ シュムペーター著 中山伊知郎他訳『資本主義・社会主義・民主主義』(東京経済新報社、1951-52年)
- ⑤ 宮沢俊義著『民主制の本質的性格』(勁草書房、1948年)
- ⑥ 辻村みよ子著『市民権の可能性』(有信堂、2002年)

科 目 名			
外国法—英米法の歴史と現在			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	沼 口 智 則

【講義概要・学習目標】

外国法の中で英米法を講義する。英米法は、イギリス法とアメリカ法に分かれる。《春学期》は、総論として英米法の歴史を概観しながら、コモン・ロー（Common Law）のシステムについて説明していく。次にイギリス法を中心に、コモン・ローとは何か、その特質とは何かということについて、人権の成立とその発展の歴史的背景を踏まえて講義を進めていきたい。《秋学期》は、アメリカ法を中心に司法審判制のしくみ・アメリカ連邦制の特徴・判例法原則などを具体的判例の紹介・分析を通じて明らかにしていく。同時にアメリカ法文化の特徴を日本の法文化との比較の中から考察し、日本の「法化社会」（＝「訴訟型契約社会」）のいくえも展望していきたい。

【講義計画】

1. 英米法総論
 - ・英米法の歴史と特徴
 - ・コモン・ロー（判例法）原理
2. イギリス法
 - ・人権の成立とその発展
 - ・コモン・ロー（判例法）原理
3. アメリカ法
 - ・司法審査制
 - ・アメリカ連邦制
 - ・コモン・ロー（判例法）原理
4. 英米法と日本
 - ・日本の「法化社会」＝「訴訟型契約社会」のいくえ

【成績評価の方法】

夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

科 目 名			
カウンセリング [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	岡 井 哲 明

【講義概要・学習目標】

悩み深き時代である。虐待やいじめ、自殺の話題が新聞を賑わす日は多い。心の問題に深く関係していると思われることは多く、カウンセリング等心理治療に対する期待は大きい。

カウンセリングは、元々アメリカで教育相談として発展してきた対人援助技法であるが、日本に導入されて以来、国内で相当に広がり実践されている。今やカウンセリングという言葉を知らない人は少ない。

本講義では、カウンセリングについて、その具体的な心理的援助が実際に、どのような理論に基づいて展開されているのかについて、構造的な約束事などルールを含めて、分かりやすく講義する。

また、必要に応じて、講義だけにとどまらず、ロールプレイなどの模擬体験学習を組み入れ、実践学としてのカウンセリングへの理解を深め、今後、対人援助に向かうであろう受講者に役立つ機会となればと考えている。

【講義計画】

1. 「こころ」とは
 2. カウンセリングとは
 3. カウンセリングの歴史
 4. カウンセリングの理論
 5. カウンセリングの技法
 6. カウンセリングにおける構造化
 7. カウンセリング過程
 8. カウンセリングの効用と限界
 9. カウンセラーの養成
 10. カウンセリングとソーシャルワーク
- ※ 適宜の模擬体験学習

【成績評価の方法】

出席及びレポートの成績を最終的な評価とする。

【教科書】

特に指定はしない。

【参考文献】

随時、講義の中で紹介する。

科 目 名			
科学思想史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

近代科学は17世紀に成立するが、その思想的背景には、古代ギリシアの合理主義、魔術思想、キリスト教信仰などがあつた。この授業では、その中でも科学とキリスト教との関係に焦点を絞って講義する。

一般に、科学と宗教は対立すると思われているが、それは間違いである。西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ようやく19世紀になって、科学は宗教から分離、独立していった。

講義ではガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ、科学と宗教が対立すると思われているのかについて考察する。

【講義計画】

おおむね以下のテーマを扱う。

1. アリストテレスの合理主義
2. アルキメデスの数理思想
3. 魔術思想と科学
4. 17世紀科学革命とキリスト教
5. 地球の歴史と『創世記』
6. 進化論とキリスト教
7. 科学と宗教の闘争史観の成立とその崩壊

【成績評価の方法】

主として、期末試験によって評価する予定。ただし、通常授業中に、理解度確認のテストを実施することもある。

【参考文献】

松永俊男『ダーウィンの時代－科学と宗教』名古屋大学出版会

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として、SS生は対象外

SS生は学科教育科目

科 目 名			
学外研修－インターンシップ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋・集中コース	2単位	吉 田 恵 子
02	秋・集中コース	2単位	義 永 忠 一

【講義概要・学習目標】

インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験などをするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。

なお当科目については、事前に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

【講義計画】

プログラムの概要

- (1) 事前研修
 - A プログラムのガイダンス
 - B 研修企業・団体などの事前研修
 - C ビジネスマナーの指導
 - D 研修要領の説明と報告書の作成指導
- (2) 研修期間

夏期休暇中（60時間以上、2週間の予定）
- (3) 事後研修

研修結果の報告

【成績評価の方法】

事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。

か
行

科 目 名			
学際科目－地域研究へのいざない			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

<地域研究>というものをとおして<学際研究>の可能性を追求する。具体的にはインドネシアあるいは東南アジアを取り上げながら、<地域>を成り立たせるものを考える。これによって、学際的・学融合的な研究としての地域研究のおもしろさを伝えたい。

東南アジアという地域を成り立たせている特性（地域特性）あるいは論理（地域論理）を明らかにするためには、とくに生態学（自然環境と人間のまじわり）と歴史学が必要であり、加えて文化学（人々の生活文化を理解する学）も重要である。

こうした学際的・学融合的な作業をとおして、はてしなく多様で複雑な（したがって一見ひとつのものとして把握しがたい）東南アジアをじつはひとつの世界として理解できるであろう。

地域研究にはフィールドワーク（現地体験、臨地調査）が必要であり、また最も面白い。しかし教室の授業なので、映像（ビデオ）で代替することになる。

【講義計画】

1. オリエンテーション＝学際的と地域研究
2. 序論＝東南アジアの地域特性のとりえ方
3. 東南アジアの複雑にして多様なこと
4. 生態学＝地球で唯一の島の熱帯
5. 「森の民」のとりえ方
6. 小人口世界としての東南アジア
7. 東南アジア2000年文化史＝開かれた地域の歴史
8. 結論＝東南アジアの地域特性12ヶ条

【成績評価の方法】

期末テストおよび時々的小テストを総合して評価する。

【教科書】

特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配布する。

【参考文献】

上智大学アジア文化研究所編『入門 東南アジア研究』めこん 1992
池端雪浦編『東南アジア史2 島嶼部』山川出版社 1999
京都大学東南アジア研究センター編『事典 東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997
その他、授業の中で適宜示す。

科 目 名			
家族社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	畠 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

家族システムに関する学際的な知識を動員して、理念型としてのhealthy familyを実現していくための基礎的条件を考察する。

近代家族は、個人化原理、愛情原理、平等原理によって特徴づけられる。私事化の肥大化と規範意識の希薄化という社会状況が進行するなかで、それぞれの原理間の矛盾が増幅されてきている。また社会システムに内在する規範への過剰な同調行動によって、家族成員は、それぞれの自己実現を阻害される。このような認識のもとに、家族変動および家族臨床の視点から現代家族の諸相を浮き彫りにする。

【講義計画】

1. 家族とは何か：山根家族論のキーワード
2. 富裕社会の家族問題
3. 子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（1）
：母親の就労が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
4. 子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（2）
：家族関係が子どものウェルビーイングに及ぼす影響
5. 子どものウェルビーイングを実現する家族の要因（3）
：入所年齢が子どものウェルビーイングおよび情緒的自立に及ぼす影響
6. 情緒的自立（1）：情緒関係が織り成す多様なメッセージ
7. 情緒的自立（2）：情緒は関係性のなかで育まれる
8. 情緒的自立（3）：情緒を育てることの意味
9. 情緒的自立（4）：癒しのメカニズム
10. 情緒的自立（5）：手間隙をかけることの意味
11. 情緒的自立（6）：甘えは情緒的自立を促す
12. 情緒的自立（7）：甘えはエネルギーの充電
13. 情緒的自立（8）：情緒を育てるための環境
14. 情緒的自立（9）：情緒的自立はどのように育つのか
15. 情緒的自立（10）：対人関係と情緒的自立
16. 家族形成の諸段階1：青年期の異性交際
17. 家族形成の諸段階2：パートナーの選択
18. 家族形成の諸段階3：結婚と同棲
19. 家族形成の諸段階4：子どもの養育と社会化
20. 家族形成の諸段階5：中・高年期の危機と役割の再編
21. 家族の危機
22. 家族の情緒構造
23. 家族機能の変化
24. 家族の未来

【成績評価の方法】

試験

【教科書】

畠中宗一『情緒的自立の社会学』世界思想社（前期）
畠中宗一『家族支援論：なぜ家族は支援を必要とするのか』世界思想社（後期）

【参考文献】

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館
畠中宗一・木村直子『子どものウェルビーイングと家族』世界思想社

【備考】

前期・後期のテキスト終了後は、家族社会学の基本的なテーマをアトランダムに取り上げる。

科 目 名			
家族福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	梓 川 一

【講義概要・学習目標】

1. 社会福祉の原点をおさえ、人間や社会の理解を深める。
2. 家族の意味、家族の幸せ、家族の価値に焦点をあてつつ、家族の理解を深める。
3. 子ども家庭福祉の分野を中心に講義を進める。主に「親と子ども」から家族を考えていく。
4. 具体的な事例を挙げながら、家族に対する援助方法を講義する。
5. 客観的な内容（制度や理論）だけでなく、主観的な内容（心理、生活史、感情など）も重視した講義を目指す。
6. 最近、家庭内で複雑かつ重大な問題が多発し、ますます「家族」が注目されている。大学生は講義を通して、専門的・客観的な知識を頭に詰め込むのではなく、あらためて「家族とは何か」を心でも感じて学んでいくべき。「生活や人生について考え、視野を広げること。心豊かに自らの家族を振り返り・思い、自らの家族観をもてること」を講義の本質的な目標としたい。

【講義計画】

1. 家族福祉論の導入（家族福祉論の必要性、家族内の関係性）
2. 現代家族の特質（富裕と貧困、格差社会）
3. 家族福祉の定義（福祉学と社会学）
4. 家族福祉の対象（虐待、家庭内暴力、依存症、障害者、高齢者など）
5. 日本の家族事情、家族の歴史（家事、育児、介護）
6. 環境と人間と家族（日本経済、職場、学校、地域）
7. 家族のニーズと生活課題
8. 福祉制度サービスと家族
9. 家族福祉の援助方法
10. 家族福祉の資源
11. 家族福祉論の理論とアプローチ
12. 家族の思い出（家族の物語、幸せな家族）
13. 家族の看取り（家族と死）

【成績評価の方法】

前期と後期、2回の定期試験に基づいて評価する。

【教科書】

畠中宗一編著『よくわかる家族福祉』ミネルヴァ書房、2002年。

科 目 名			
学科特殊講義－日本の冠婚葬祭			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	橋 内 武

【講義概要・学習目標】

This is an introduction to Japanese folklore, folk customs in particular. It deals with rites of passage, calendar customs and children's lore.

【講義計画】

1. Folklore and folkloristics
2. Rites of passage: birth, wedding and funeral
3. Calendar customs: New Year and Bon Festival
4. Children's lore: Games and Pastime

【成績評価の方法】

Attendance: 20%
A 2,000 word paper in English: 30%
Final test: 50%

【教科書】

No texts are required. However, handouts are provided at every class.

【参考文献】

List of readings and references are given at the first class of the semester.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
学科特殊講義－プロデュース学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	川 田 隆 雄

【講義概要・学習目標】

最近、〇〇プロデューサーという肩書きを持つ人の名刺を受け取ることがあります。エンターテインメントプロデューサーはもちろんのこと、都市開発プロデューサー、ウエディングプロデューサー、宇宙基地開発プロデューサーなど様々です。プロデューサーという言葉は映画産業といった特定の分野で使われる職業的機能を指すものでなく、あらゆる産業で使われる言葉になっています。言葉が浮遊し、はっきりと定義できるものではありませんが、実体の職能として存在し、社会からの強い要請があって、多様なプロデューサーが出現してきていることは確かです。この授業ではプロデューサーを「過去において誰もやったことのないことを思いつき、何とか実現する人」と定義します。

過去において自分の思いつきを実現することが出来る人は、富や権力のある特殊な人たちでした。この特殊な人たちは王様のような人と言い換えてもよいでしょう。王様は自分の持つ財力、権力、軍事力などを使って、お城を造営したり、戦争を行ったり、レオナルド・ダビンチのような人物のパトロンになって、舞台芸術をプロデュースすることも出来ました。我々はこのような人物を「王様P」と呼んでいます。現代ではこのような王様Pは少なくなり、「現代P」が登場してきています。現代Pは王様Pのように、自分の富や権力を使うことなく、自らの思いつきを実現していきます。現代Pはプロデュースの価値や大義名分を社会に対して説き、また、その完成を約束することで必要な資源を手入れます。例えば、新しい映画の構想を思いついたとすれば、社会にそれが受け入れられることを説き、そして自分には最高の映画がプロデュース出来ることを主張して任されることとなります。つまり、現代Pは社会化を約束することで、自分の思いつきが実現出来ると言えます。この現代Pの構図から考えると、現代では方法をしっかり考えれば、だれでもプロデューサーになるチャンスがある時代とも言えます。

このような現代Pが行うプロセスには、共通してみられる「共通ノウハウ」とプロデューサーごとに違う「個別のノウハウ」があることが分かっています。この授業では、エンターテインメント産業をから発生してきた、プロデュースのプロセスを概観し、現代Pの持つ共通ノウハウと個別ノウハウを学んだ後、自分たちでプロデュースの設計図がかけられるようになることを目指します。

【講義計画】

- (1) プロデュース学概論のガイダンス 1
- (2) 思いつきを育む 1
- (3) 思いつきを育む 2
- (4) 思いつきを構想に導く
- (5) 他人が分かるストーリーを作る
- (6) 他人を説得するためのストーリーテリング
- (7) プロデュースを成功させるための設計図を作る
- (8) プロデュースに必要なキャスティングを行う
- (9) リスクを回避するためのシミュレーションを行う
- (10) プロジェクトの実行管理
- (11) プロデュースの成果を世の中に普及させる
- (12) 実際にプロデュースプロジェクトの設計を行う

【成績評価の方法】

授業への参加度、提出物、最終の試験を総合して評価を行う。

【参考文献】

適宜指示する

科 目 名			
学科特殊講義－日本の口承文芸			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	橋 内 武

【講義概要・学習目標】

This is an introduction to Japanese Oral Tradition, which includes myths, legends and folk tales, proverbs, and riddles. However, we will focus on Japanese folk tales.

【講義計画】

1. Folklore and Oral Tradition
2. Myths and legends
3. Types of folk tales
4. Approaches to folk tales
5. Proverbs and riddles

【成績評価の方法】

Attendance: 20%

A 2,000 word paper in English: 30%

Final Test: 50%

【教科書】

SEKI, Keigo, Folktales of Japan. University of Chicago Press. 1963.

【参考文献】

Necessary readings will be announced at class.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
学科特殊講義—日本の伝統文化概論 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	片 平 幸

【講義概要・学習目標】

This course will focus on three interrelated themes, that are general history, key concepts and customs of Japan. By using visual supplements and offering the opportunity to visit historical places, the purpose of the course is to help students to learn basic knowledge and solid backgrounds to understand Japanese culture. It is also designed for Introduction to Japanese Culture II in the following fall semester in which Japanese culture is examined with a broad and intercultural perspective. As part of the course assessment, students are required to write 1200 words essay and/or group presentation on relative issues.

【講義計画】

1. Introduction to the course

Theme 1 - General History

2. General history and its visual culture 1

3. General history and its visual culture 2

4. General history and its visual culture 3

5. Field trip

Theme 2 - Key Concepts of Japanese culture

6. Key Concepts of Japanese culture 1

7. Key Concepts of Japanese culture 2

8. Key Concepts of Japanese culture 3

9. Key Concepts of Japanese culture 4

10. Field trip

Theme 3 - Japanese customs

12. Japanese customs 1

12. Japanese customs 2

13. Japanese customs 3

14. Group presentation and/or Review for final exam

【成績評価の方法】

Attendance and Class Participation 30%, Term paper of 1,200 words and/or group presentation 30%, final Examination 40%

【教科書】

Supplementary materials are provided.

【参考文献】

Paul Varley, Japanese Culture, 4 th updated edition, University of Hawaii press, Honolulu, 2000

Roger J. Davies and Osamu Ikeno ed., The Japanese Mind, Understanding Contemporary Japanese Culture, Tuttle Publishing, Tokyo, 2002

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
学科特殊講義—日本の伝統文化概論 II			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	片 平 幸

【講義概要・学習目標】

This course introduces students to some of main features of Japanese culture and aesthetics and aims to offer the opportunity to foster a broad and intercultural perspective to it. The first part of the course provides a brief history of and the fundamental concepts, theories, and practice of Japanese gardens and tea culture. The second part of the course provides basic knowledge on traditional performing arts, and offers the opportunity to encounter the actual performances. Students are encouraged to learn critically how images of Japan and the notion of "tradition" have been formed, by tracing the history of cultural contact between Japan and western countries. As part of their course assessment, students are required to write 1200 words essay and/or group presentation on relative issues.

【講義計画】

1. Orientation of the course

Theme 1 - Presentation and Spatial composition

2. Introduction to Japanese Gardens - History of Japanese gardens 1

3. History of Japanese gardens 2

4. History of Japanese gardens 3

5. Field Trip (visiting gardens)

6. The Construction of images of Japanese Gardens - Japanese gardens in the West

7. Introduction to Cha-no-yu - Cultural history of Cha-no-yu 1

8. Cultural history of Cha-no-yu 2

9. Field trip (Tea ceremony)

10. Japanese gardens and Cha-no-yu - a process of finding and creating "Japanese-ness"

Theme 2 - Japanese Traditional (Classical) performing Art

11. Introduction to Japanese performing art 1 - Noh play and Kyogen

12. Introduction to Japanese performing art 2 - Kabuki and Bunraku

13. Introduction to Japanese performing art 3 - Rakugo, comic storytelling

14. Oral presentation and/or Review final exam

【成績評価の方法】

Attendance and Class Participation 30%, Term paper of 1,200 words and/or group presentation 30%, final Examination 40%

【教科書】

Josiah Conder, The Landscape Gardening in Japan, Kodansha International, Tokyo, 2002

Tenshin Okakura, The Book of Tea, Kodansha International, Tokyo, 2005

Other materials will be recommended at each lecture.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
学校図書館論 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

学校図書館に関する総論である。学校図書館について総括的に把握するとともに、「司書教諭科目」の基礎科目という視点から学んで行く。「講義計画」に記したよう講義を展開する。

【講義計画】

1. 学校図書館概説
2. 学校経営と学校図書館 (1)
3. 学校経営と学校図書館 (2)
4. 学校図書館と法規・基準 (1)
5. 学校図書館と法規・基準 (2)
6. 学校図書館の管理運営 (1)
7. 学校図書館の管理運営 (2)
8. 学校図書館の管理運営 (3)
9. 司書教諭、学校司書の働き
10. 学校図書館の授業への寄与 (1)
11. 学校図書館の授業への寄与 (2)
12. 学校図書館の授業への寄与 (3)
13. 学校図書館をめぐるネットワーク (1)
14. 学校図書館をめぐるネットワーク (2)
15. マトメ (テスト)

【成績評価の方法】

インテグレーション科目であるので、毎回の課題 (レポート) と出席が重要である。

出席 10%
レポート40%
テスト 50%

【教科書】

『学校教育と図書館』第一法規 2007年 (予定) 2000円 (予価)

【参考文献】

図書館の「指定図書コーナー」の関係科目の棚に備えた図書。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
学校図書館論 II			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	志保田 務

【講義概要・学習目標】

本科目は、学校図書館法のもとの学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学習目標を有する。

<内容>

- 1) 学校図書館メディアの種類と特性
- 2) 学校図書館メディアの選択と構成
- 3) 学校図書館メディアの組織化

資料排列法:

書架分類法: 日本十進分類法 (NDC)

図書記号法

別置法:

主題目録法

件名法: 基本件名目録法 (BSH)

書誌分類法

名称による検索: 日本目録規則 (NCR) 1987年版改訂版

著者検索

タイトル検索

キーワード検索

目録の機械化

多様な学習環境と学校図書館メディアの配置

<目標>

- 1) 学校図書館司書教諭の資格の取得
- 2) それにふさわしい、資料組織化、資料構成に関する知識の取得
- 3) 学校図書館の実際業務に役立つ知識の獲得

【講義計画】

1. メディアの構成: 資料論
2. 分類
3. 書架分類
4. 日本十進分類法 1
5. 同上 2
6. 分類法演習 1
7. 同上 2
8. 目録法
9. 同上 (タイトル目録)
10. 同上 (著者目録)
11. 同上 (件名目録)
12. 機械化目録
13. 多様な学習環境と学校図書館メディア
14. 学校図書館メディアセンター論
15. テスト

【成績評価の方法】

テスト 70%
課題 20%
出席 10%

【教科書】

志保田務『分類・目録法入門;メディアの構成 新改訂4版』第一法規 2005 円2000

【参考文献】

『学校教育と図書館』(オー法規)。ほか図書館の指定図書コーナーを見てください。

【備考】

実習スタイルの授業とするので、マニュアルとしてテキストは必ず入手、持参する必要がある。

インテグレーション科目

科 目 名			
学校図書館論Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

学校図書館司書教諭資格課程の必須科目であり、且つ教職課程の科目のうちの「教科又は教職に関する科目」として位置づけられた選択科目でもある。学校図書館司書教諭として児童・生徒を教育するために必要な基礎・基本を教授する。この科目の主題は学習指導と学校図書館である。学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。それゆえ、授業では計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。

【講義計画】

1. 授業開き
2. 学校教育と学校図書館
3. カリキュラム編成と学校図書館
4. 学習情報センターとしての学校図書館
5. 教材センターとしての学校図書館
6. 生涯学習の理念と学校図書館
7. メディア活用能力の育成 1
8. メディア活用能力の育成 2
9. メディア活用能力の育成 3
10. 発達段階に応じた学習指導のあり方
11. 中学校における学校図書館の実際 1
12. 中学校における学校図書館の実際 2
13. 中学校における学校図書館の実際 3
14. 学校図書館における情報サービス
15. まとめ

【成績評価の方法】

平常点及び定期試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

志村尚夫 監修、朝比奈大作 編著『学習指導と学校図書館』、樹村房、ISBN 4-88367-045-7

【参考文献】

適宜、紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
学校図書館論Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

学校図書館司書教諭資格課程の必須科目であり、且つ教職課程の科目のうちの「教科又は教職に関する科目」として位置づけられた選択科目でもある。学校図書館司書教諭として児童・生徒を教育するために必要な基礎・基本を教授する。この科目の主題は読書と豊かな人間性である。子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性を豊かに醸成する学校図書館活動の在り方について、その基本と実際をとりあげる。

【講義計画】

1. 授業開き
2. 読書と人間
3. 発達段階と読書 1
4. 発達段階と読書 2
5. 発達段階と読書 3
6. 読書資料の種類と活用
7. 読書への手がかりと読書体験のひろがり
8. 中学校における読書指導の実際 1
9. 中学校における読書指導の実際 2
10. 中学校における読書指導の実際 3
11. 読み語り の 実際 1
12. 読み語り の 実際 2
13. 読み語り の 実際 3
14. 学校図書館の課題
15. まとめ

【成績評価の方法】

平常点及び定期試験の結果を総合して評価する。

【教科書】

志村尚夫 監修、赤星隆子 編著『読書と豊かな人間性』、樹村房、ISBN 4-88367-046-5

【参考文献】

適宜、紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
株式会社会計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	河 野 勉

【講義概要・学習目標】

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要のため、毎時間、練習を解く学習を中心に授業を進める。

財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】

1. 簿記一巡の取引と財務諸表
2. 現金預金取引
3. 有価証券取引
4. 債権債務取引
5. 手形取引
6. 引当金取引
7. 特殊商品売買取引
8. 固定資産取引
9. 株式会社会計
10. 決算整理・財務諸表の作成
11. 本支店会計・合併財務諸表の作成
12. 帳簿組織・仕訳帳の分割・伝票式会計

【成績評価の方法】

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

【教科書】

- ・武田隆二著「簿記一般教程」（中央経済社）
- ・加古 宜士・渡辺裕亘（編著）
「新検定簿記ワークブック 2級商業簿記」（中央経済社）

【参考文献】

- 加古宜士・渡辺裕亘（編著）
「新検定簿記講義 2級商業簿記」（中央経済社）

科 目 名			
環境経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	浦 出 俊 和

【講義概要・学習目標】

環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード・オフの関係にある。経済発展と環境保全の両立の上では、環境の経済的特質を理解することが必要不可欠である。

本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。

環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、講義の中で基礎的な理論も解説する予定であるので、これらの知識がない者でも歓迎する。

【講義計画】

1. 環境問題と経済学
2. ゴミ・リサイクル問題の経済学
3. 市場均衡と社会的総余剰
4. 市場の失敗と外部性
5. 公共財と環境財
6. 環境政策における経済的手段
7. PPPの原則とコースの定理
8. 非枯渇性資源問題とゲーム論
9. 環境価値の経済評価

【成績評価の方法】

原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

【教科書】

特に指定しないが、講義概要や講義資料は下記を参照のこと。
<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/envi-index.html>

【参考文献】

- 1) 植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
- 2) R. K. ターナー・D. ピアス・I. ベイトマン（著）大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』（東洋経済新報社）

科 目 名			
環境問題概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	巖 圭 介

【講義概要・学習目標】

地球温暖化、化学物質、リサイクル・・・、環境問題はすでに身近にあり、多くの人が漠然とした不安を持ちながら、しかし具体的に行動を起こすことなく毎日を送っている。私たちの生活の何がどのように問題なのか、多くの情報があふれかえる現在、信頼できる基礎知識を身につけ、これからの自分の行動を決めていかねばならない。

この講義では、これからの時代を生きていくうえで必須と思われる、主要な環境問題に関する基礎知識を身につけてもらうとともに、それぞれの問題に対し今何をすべきか、何がなされているか、何ができるかを、ともに考えていきたい。

【講義計画】

時事問題も取り入れながら、おおむね以下のテーマを扱う（順序は変更の可能性あり）。

- ・ ゴミ問題
- ・ 人工化学物質汚染
- ・ 酸性雨、オゾン層破壊
- ・ 地球温暖化
- ・ 土壌劣化、水危機、食糧問題
- ・ エネルギー問題

【成績評価の方法】

テーマの区切りごとに課すイン・クラス・レポート（授業時間中に書く短いレポート）や小テスト、提出自由のボーナスレポート、および期末試験により判定する（詳細は初回講義にて説明）。

【教科書】

なし

【参考文献】

- 遠山益『人間環境学』 裳華房 2001
 石弘之『地球環境報告Ⅱ』 岩波新書 1998
 安井至『市民のための環境学入門』 丸善ライブラリー 1998
 東京商工会議所『ECO検定公式テキスト』 日本能率協会マネジメントセンター 2006

【備考】

<02～07生>
 共通自由科目として、SS生は対象外
 SS生は学科教育科目

科 目 名			
監査論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	朴 大 栄

【講義概要・学習目標】

バブル経済の崩壊とともに、長期にわたる不況が数多くの企業倒産を引き起こしている。倒産企業においては、経営者による不正や粉飾財務諸表の作成が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、2002年1月には監査基準の大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。

【講義計画】

講義の順序を示す。

- 第1章 社会を揺るがす経済事件
- 第2章 経済事件とコーポレートガバナンス
- 第3章 経済社会を支える財務情報
- 第4章 財務情報と監査の必要性
- 第5章 監査を取り巻く法律
- 第6章 監査を担当する人
- 第7章 監査を取り巻く組織
- 第8章 監査のルール
- 第9章 監査のプロセス1
- 第10章 監査のプロセス2
- 第11章 監査結果の報告
- 第12章 新たな課題
- 第13章 健全な社会と監査

【成績評価の方法】

定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

盛田良久、百合野正博、朴大栄編『まなびの入門監査論』、中央経済社

【参考文献】

- 鳥羽至英著 『監査基準の基礎』 白桃書房
 山浦久司著 『会計監査論』 中央経済社
 その他、講義中に適宜指示する。

科 目 名			
環太平洋圏経営研究A			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期 (隔週)	2単位	岸 本 裕 一

【講義概要・学習目標】

日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。中国・台湾のWTO加盟や、APECのありようは、そのサニーサイドであり、また、たとえば、1998年に起こったアジアの金融危機などは、そのダークサイドということができよう。また、中国の通貨人民元の為替レートの問題も国際的な関心事の1つである。さらに、以前の常識からは想像しにくいことも数多く生起している。このような中において、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件である。また、このような学びは、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通るとのできない学びとなっている。

受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、多くの受講を期待する。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。各界の実力者・著名人を数多く招いての講義展開となるので、1回生は必修科目に準じた認識の下での受講を期待する。

【講義計画】

<前期>

第1回は「環太平洋圏経営研究の実践的課題と方法論」として岸本が講義した後、第2回以降は、韓国、中国、アメリカ、東南アジア、中南米、ロシア極東地域の 経済動向と経営の展開について、専門家によるリレー講義となる。

(注記) 前・後期とも詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションの時点で公表される。

【成績評価の方法】

1. 講義への出席と関与の程度
2. レポートの評価

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
環太平洋圏経営研究B			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期 (隔週)	4単位	岸 本 裕 一

【講義概要・学習目標】

日本を含む環太平洋圏（南北アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。中国・台湾のWTO加盟や、APECのありようは、そのサニーサイドであり、また、たとえば、1998年に起こったアジアの金融危機などは、そのダークサイドということができよう。また、中国の通貨人民元の為替レートの問題も国際的な関心事の1つである。さらに、以前の常識からは想像しにくいことも数多く生起している。このような中において、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件である。また、このような学びは、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通るとのできない学びとなっている。

受講生である院生諸君の研究の視野や問題意識をより大きく広げてもらうチャンスと捉えて、多くの受講を期待する。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。各界の実力者・著名人を数多く招いての講義展開となるので、1回生は必修科目に準じた認識の下での受講を期待する。

【講義計画】

<後期>

最新のトピックを盛り込んだ講義、たとえば、小売業のあり方、環境問題への取組、コンテンツ産業の展開などにつき専門家のリレー講義となる。そして、最終回は「取りまとめの講義」を岸本が行なう。

(注記) 前・後期とも詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションの時点で公表される。

【成績評価の方法】

1. 講義への出席と関与の程度
2. レポートの評価

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
管理会計論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	谷 武 幸

【講義概要・学習目標】

管理会計は、経営戦略を実現するためのシステムです。管理会計では、経営戦略の実現に向けて将来を計画（plan）し、このプランの実行（do）プロセスにおいてプランの実現をチェック（check）し、必要なアクションをとるという一連のサイクルを回します。本講義では、管理会計の基本の理解を目標とします。

【講義計画】

第Ⅰ部 管理会計の基礎

- 第1章 管理会計の意義
- 第2章 管理会計の基礎概念
- 第3章 意思決定会計の方法
- 第4章 業績管理会計の方法

第Ⅱ部 伝統的管理会計システム

- 第5章 原価管理
- 第6章 予算管理
- 第7章 中長期計画
- 第8章 設備投資計画
- 第9章 事業部制会計

第Ⅲ部 戦略的管理会計システム

- 第10章 戦略的管理会計の意義
- 第11章 原価企画
- 第12章 ABC
- 第13章 バランス・スコアカード
- 第14章 インタラクティブコントロール

【成績評価の方法】

試験の成績により評価します。

【教科書】

教科書としては、溝口一雄編著『管理会計の基礎』中央経済社を使用する。第Ⅲ部については、プリントを配布する。

【参考文献】

その都度指定します。

科 目 名			
企業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	坂 本 雅 則

【講義概要・学習目標】

マニション強度偽装事件などを思い浮かべれば、現代社会における「企業」の役割は大きく、社会全体に重大な影響を及ぼすことが端的にわかります。現代社会の問題を解決するには、多大な影響力を持つ企業を「どのように捉え、どう認識し、どう制御するのか」ということが重要な課題となり、企業における「所有者・支配者・権力者は誰なのか」ということを特定することが不可欠です。

このような課題はこれまで企業支配論やコーポレート・ガバナンス論という領域で議論されてきました。本講義では、これら既存学説にとらわれず、企業における権力関係を分析するにはどうすればよいのか、ということを中心に話を進めます。具体的には株式会社に関する議論からはじめて、これまでの学説では何が見えて、何が見えないのかを事例を使いながらはっきりさせます。そして、最終的には既存の学説をのりこえる視点を提起したいと思います。

【講義計画】

1. イントロダクション
2. 株式会社とはどういう企業形態であるのか
3. 企業における権力者は誰か
 - ① 法律的な所有者を権力者と考えるアプローチ
 - ② 地位の占有者を権力者と考えるアプローチ
4. 既存学説としてどのようなものがあるのか
5. 事例分析
 - ① 小規模個人企業の場合
 - ② 閉鎖株式会社の場合
 - ③ 公開株式会社の場合
6. 既存学説の限界
7. どうすれば限界を乗り越えられるか
8. 方法論の問題

【成績評価の方法】

概ね期末テストが6割、平常点4割で評価します。平常点とは授業態度とテスト後に提出してもらった講義ノートの内容です。

【教科書】

坂本雅則『企業支配論の統一的パラダイム―「構造的支配」概念の提唱―』文眞堂, 2007年

【参考文献】

授業中に触れます。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	野 原 康 弘

【講義概要・学習目標】

1年生の「大学生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に、“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは，社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

<学習目標>

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

*全回出席を原則とする

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 読んで理解し、要約を書く(1)
- 第3回 読んで理解し、要約を書く(2)
- 第4回 読んで理解し、要約を書く(3)
- 第5回 聞いてメモを取り、要約を書く(1)
- 第6回 聞いてメモを取り、要約を書く(2)
- 第7回 聞いてメモを取り、要約を書く(3)
- 第8回 プレゼンテーションについて(ビデオ等)
- 第9回 わかりやすく表現する(1)
- 第10回 わかりやすく表現する(2)
- 第11回 わかりやすく表現する(3)
- 第12回 3年生からの「演習」への取り組み方

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポートのなどの提出とその内容、授業中の態度など

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

【備考】

留学生対象クラス

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	片岡信之
03	秋学期	2単位	河合隆治
04	秋学期	2単位	河合隆治
05	秋学期	2単位	河合隆治
06	秋学期	2単位	鈴木幾多郎
07	秋学期	2単位	鈴木幾多郎
08	秋学期	2単位	武田久義
09	秋学期	2単位	武田久義
10	秋学期	2単位	武田久義
11	秋学期	2単位	武田久義
12	秋学期	2単位	谷中村恒彦
13	秋学期	2単位	谷中村恒彦
14	秋学期	2単位	野田俊範
15	秋学期	2単位	野田俊範
16	秋学期	2単位	野田俊範

【講義概要・学習目標】

1年生の「大学生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に、“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは，社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

<学習目標>

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

*全回出席を原則とする

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 読んで理解し、要約を書く(1)
- 第3回 読んで理解し、要約を書く(2)
- 第4回 読んで理解し、要約を書く(3)
- 第5回 聞いてメモを取り、要約を書く(1)
- 第6回 聞いてメモを取り、要約を書く(2)
- 第7回 聞いてメモを取り、要約を書く(3)
- 第8回 プレゼンテーションについて(ビデオ等)
- 第9回 わかりやすく表現する(1)
- 第10回 わかりやすく表現する(2)
- 第11回 わかりやすく表現する(3)
- 第12回 3年生からの「演習」への取り組み方
- 第13回 基礎学力テスト
- 第14回 キャリア支援講義

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポートのなどの提出とその内容、授業中の態度など

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

科 目 名			
基礎演習<L>			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4単位	串 田 久 治
02	通期	4単位	有 川 康 二
03	通期	4単位	今 澤 浩 二
04	通期	4単位	岡 田 章 子
05	通期	4単位	日 下 隆 平
06	通期	4単位	清 水 真 一
07	通期	4単位	寺 木 伸 明
08	通期	4単位	友 沢 昭 江
09	通期	4単位	真 鍋 幸
10	通期	4単位	藤 森 かよ子
11	通期	4単位	アニー ヤマサキ

【講義概要・学習目標】

文学部では国際社会で広く活躍しうる人材を育成するために、「実践的英語力」「国際的視野」「現代社会への対応」という3つの方針を掲げている。この演習の目的は、こうした教育理念を生かすための素養と技能を獲得することである。

「何をどう学ぶか」の指導・助言を行う。とくに文学部でどのような勉学が可能であるか、あわせて学生生活一般にかかわるガイダンスを行う。受講生が2年次以降どのコースを専攻し、またどちらの学科を選択するかを判断するのに役立つことである。

具体的な授業内容としては、とくに少人数ゼミナールという利点を生かして、研究発表のしかたやレポートの書き方に習熟することが重視される。これはすべての科目に有益であるが、とくに3年次からの専門演習をスムーズに始めることができるであろう。

【講義計画】

- ①図書館の利用方法
- ②情報センターの利用方法
- ③講義の受け方、ノートを取り方
- ④読書指導（内容の把握と評価）
- ⑤文章指導
- ⑥レポートの書き方（問題の発見・設定、資料・情報の収集、情報の解説と総合）
- ⑦プレゼンテーションの方法、自己紹介から研究発表まで

【成績評価の方法】

出席（毎回出席が原則）、積極的な授業参加、課題の提出などにより総合的に評価する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	通期	4単位	軽 部 恵 子

【講義概要・学習目標】

人間の知的活動は「聞く・話す・読む・書く」の4つに集約できます。この演習では、日本語の能力を磨き、論理的思考を習得するための練習をします。また、相手の話を細部まで正確に理解し、資料を多角的に分析し、説得力ある意見をわかりやすく発表し、理路整然とした文章を書くという、大学でのあらゆる勉強に必要な不可欠な技術を学びます。

受講生は高校までの勉強方法にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心・探求心を持つよう求められます。主要新聞（朝日、読売、毎日、日経）のうち1紙を毎日読み、テレビのニュース番組を見て下さい。演習の素材には、身近でタイムリーなトピックを取り上げます。

【講義計画】

1. 聞く：ノートの取り方
2. 話す：発表の基礎、1分間スピーチ、ディベート
3. 調べる：図書館の使い方、資料収集の方法、ホームページの使い方、新聞の読み方（紙面構成、記事の内容、社説、世論調査、複数紙の比較）
4. 読む：要旨の把握、資料の整理と検討、論理的思考方法、名文の鑑賞
5. 書く：「漢字力」の向上、敬語の使い分け、慣用句や語彙数の増加、表現力の向上、テーマ選定、適切な言葉遣い、明快な論旨と構成、正確で完全な引用、文章の添削
6. その他：テレビと新聞の違い、映画に見る裁判

【成績評価の方法】

出席状況、授業中の発言・質問、課題（内容・期限の遵守）、発表（個人・グループ）、学期末試験を積算して評価します。履修の大前提として、出席状況はとくに重視されます。

【教科書】

- ①北村肇『新聞記事が「わかる」技術』講談社 2003年
- ②木幡健一『「プレゼンテーション」に強くなる本』PHP研究所 2002年
- ③谷岡一郎『「社会調査」のウソ』文藝春秋社 2000年

【参考文献】

- ・池上彰 『池上彰の情報力』ダイヤモンド社 2004年
- ・石田晴久 『インターネット安全活用術』岩波書店 2004年
- ・井上真琴 『図書館に訊け!』筑摩書房 2004年
- ・小笠原喜康 『インターネット完全活用版：大学生のためのレポート・論文術』講談社 2003年
- ・小笠原喜康 『大学生のためのレポート・論文術』講談社 2002年
- ・北川達夫他『図解フィンランド・メソッド入門』経済界 2005年
- ・小林公夫『論理思考の鍛え方』講談社 2004年
- ・渋井真帆『渋井真帆の日経新聞読みこなし隊』日経新聞社 2005年
- ・成川豊彦『成川式文章の書き方』新訂版 PHP研究所 2003年
- ・藤沢晃治『「分かりやすい説明」の技術』講談社 2002年
- ・古橋信孝、吉田文憲監修『思わず口ずさむなつかしい日本語の歌・と詩』成美堂出版 2004年

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4単位	佐 藤 啓 子

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とする。それにより、学習のための基本技術の習得およびモチベーションの向上を図る。

また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生生活を円滑にするための側面支援を行う。

【講義計画】

前期…ノートの取り方、情報機器の利用法、図書館の使い方、教科書の読み方、報告書・答案の書き方など
後期…ディベート、ゼミレポートの書き方・報告方法など

【成績評価の方法】

出席とその態度・発言、提出物で決定する。

【教科書】

弥永真生『法律学習マニュアル』有斐閣
いずれかの一般的な六法

【参考文献】

武居一正『法律学習マニュアル』法律文化社

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4単位	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

大学では、自らの主体的な学修が望まれる。教えられることを正確に理解するだけでなく、自らの考えを裏付ける調査を行い整理し、それを口頭および文書の形で発表して他人に伝え、批評を受けることが求められる。

演習では、社会科学の基礎的な部分にふれることで、これから法学部でどのようなことを学ぶのか、それにはどのような方法が必要であるのかを感じてもらいたい。今後の専門的な研究への期待と関心が深められるように、構成メンバーの自由な意見交換を行える場としたい。

【講義計画】

<春学期>

図書館・情報センター等の施設を利用した文献・資料収集方法のガイダンスを受けた後、まず、グループごとに特定のテーマについて、以下のような手順で報告するという経験をしてもらう。

1. 問題の設定
2. 資料の収集
3. レジュメ（報告要旨）の作成・報告
4. 質問への対応
5. レポート作成

その後、各人の関心テーマについて一人でこれを行なう。

<秋学期>

希望により、特定のテキストを使用し、問題設定・報告・議論を行い、それぞれレポートを作成する。その他、ディベート等も行いたい。

【成績評価の方法】

出席・議論への参加状況およびレポートを総合評価する。

【教科書】

春学期は特に使用しない。

秋学期は、受講者の希望を聞いて決定する。

なお、六法（出版社は問わない）は必ず持参すること。使いこなせるように、ガイダンスを行います。

【参考文献】

適宜紹介する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4単位	田 中 志津子

【講義概要・学習目標】

教師から教えてもらうだけの「受身」の学び方ではなく、文献を調べる等自分から積極的に行動する学び方を身に付ける。

文献収集方法、文献講読方法、レポート・論文の書き方、報告手順、議論の進め方等を学び、大学での教育を有効に習得できるようにする。

【講義計画】

- ・文献収集方法、出典の表記方法
- ・文献講読・要旨抽出
- ・ノートの取り方、レポート・論文の書き方
- ・報告手順（準備したものを読めばよいわけではない）
- ・議論の進め方（ディベートの練習） など

【成績評価の方法】

出席状況・報告・発言・取組姿勢・提出物等を総合的に評価する。
正当な理由のない遅刻・欠席・提出物の未提出などは一切認めない。

【教科書】

適宜指示する。

【参考文献】

- ・河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第3版（慶応大学出版会、ISBN：4766409698；第3版 版（2002/12））
- ・小野田博一『絶対困らない議論の方法』（三笠書房、ISBN：4837970370；（1999/05））

【備考】

- ・携帯電話の着信音を必ず切っておくこと。その他、授業の妨げになる行為を行った者は退出させる。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4単位	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

法の存在は、トラブルに遭遇して認識される。加害者にも、被害者にもなりうる可能性があるトラブルとして自動車による交通事故を挙げることができる。

春学期は、自動車事故に基づく損害賠償の具体的な判例を素材に、六法の使い方・読み方、文献の探索方法、損害賠償の法理、法の適用過程、民事訴訟の概略、最高裁判所判決の読み方等、法学を学ぶ上で基礎的な知識等を学ぶ。あわせて、受講生の体験等に基づいて、道路交通法に基づく運転手の安全確保手段等についても理解を深めたい。

尚、質問等を気軽に言い得るためには、演習生相互の親睦が欠かせないものと考えているから、早い時期にコンパ等も行いたい。

夏休みの課題として、各自、判例を1つ選択し、レジメを作る。秋学期にはいると各自、報告する。他の演習生はその報告に質問等を行い、その報告について、レポートを毎時間提出する。そのことにより、人の報告を聞いて、ノートを取る能力等を養いたい。

このレポートについては、毎回添削して返却したい。

最終的には、自己の報告した判例について、最終レポートを提出する。

【講義計画】

春学期

- 1 ガイダンス
- 2 自己紹介
- 3 コンパ
- 4 最高裁判所の交通事故判決の輪読
- 5 後期に各自が報告する判決の選択

秋学期

- 6 各自選択した判決の報告
- 7 最終レポートの提出

【成績評価の方法】

正当な理由なき欠席は、受講を放棄したものとみなす。

授業時間中における質問、自己の報告、授業に対する積極性、毎回のレポート、最終レポート等を総合的に勘案して評価する。

【教科書】

別冊ジュリスト『交通事故判例百選（最新版）』（有斐閣）
ポケット六法[平成19年版]（有斐閣）

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4単位	永 水 裕 子

【講義概要・学習目標】

法学部での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートのとおり方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベート、論文・レポートの書き方、報告の仕方、文献購読の仕方等についての基礎的な指導を行う。

さらに、少人数制を生かし、学生相互の間に交流の絆が生まれるよう側面から支援するとともに、学生生活や将来の進路に関する相談・助言を行う予定である。

【講義計画】

- ・文献・資料等の検索、収集方法
- ・図書館利用の方法
- ・ノートのとおり方
- ・レポートの書き方
- ・報告の仕方
- ・判例の読み方

【成績評価の方法】

出席状況、報告、発言・取組姿勢、提出物等を総合的に評価する。無断欠席は認めない。

【教科書】

最新六法（民法入門にも使用）

【参考文献】

演習の際に指示する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4単位	南 由 介

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミックガイダンスとして開講されます。大学での学問は、高校までとは違い、教えられる（耳から聞く）だけではなく、自ら積極的に学ぶ（自分で調べてくる）必要があります、いわば自己責任の世界です（怠けても誰も助けてくれません）。それ故、新入生は戸惑うことも多々あるかと思えます。

本演習では、大学での学問における戸惑いを解消し、4年間の学生生活を有意義に過ごすために、勉学に必要な基礎的能力を養うことを目的とするものです。そのため、本演習は、例えば、情報収集の仕方、自分で調べ、報告をする能力、ディベートによる表現能力の向上等、大学での学習において必要となる能力を身につけることを通じ、大学生生活が円滑に進むよう、側面的に支援します。

【講義計画】

ディベートを中心に行います。テーマは社会情勢一般を扱い、世の中が今、どのように動いているのかを知るとともに、他人の面前で発言することに慣れてもらいます。

また、図書館の使い方を含め、情報収集技術を身につけてもらいます（これは慣れていないと意外に難しい）。

レポートの書き方や、法律文献の読み方、および判例の読み方についても学んでもらう予定です。

【成績評価の方法】

出席、レポート、演習における積極性等、総合的に評価します。担当者は、受講者が欠席しても、レポートを提出しなかったとしても、強く注意することはありません。しかし、その場合は必ず評価が下がる（単位を落とす）こととなりますので注意してください。

【教科書】

適時、指定します。

【参考文献】

適時、指定します。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4単位	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

法学部の基礎演習は、大学での学習のためのアカデミック・ガイダンスという共通の性格を有している。この授業でも、学習を進める際の文献・資料の検索収集、学習成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告や討論等を実際に体験する中で、大学生に不可欠な種々の学習能力・技術（特に法律学学習のノウハウ）を体得してもらう予定である。学内の図書館の見学を授業の一環として実施するほか、事情が許せば学内外の諸施設の見学利用等も考えたい。なお、法律関係の各種資格試験の紹介や全般的な履修指導も行うつもりである。

【講義計画】

春学期は毎時間、別途配布資料等を学生諸君に分担して紹介報告してもらう予定である。図書館等の見学に時間を割くこともある。作文・小論文の書き方を指導したうえで、実際に書く作業を課すこともある。全般的な履修指導のほか、各種資格試験の案内も行う。

夏休み中および秋以降の課題として、各自が関心のある問題につき文献・資料を読んだ上でレポートを書いてもらうこととする（レポートのテーマは各自の選択に委ねるつもりだが、大枠は指定するかもしれない）。秋学期の途中から、毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらうことになる。

【成績評価の方法】

出席状況、受講態度、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【教科書】

西野喜一『法律文献学入門』（成文堂）

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10 11	通期	4単位	馬 場 巖

【講義概要・学習目標】

これから、法学部の学生としての法律の基礎知識を習得できることを目的にします。資料の収集の仕方、レポート・論文の書き方、判例の読み方、報告の仕方などを勉強します。これらが終わった後、研究発表を行ってもらいます。

【講義計画】

ガイダンス・自己紹介・資料の収集の仕方、レポート・論文の書き方、判例の読み方、報告の仕方などを行います。その後、個人ないしグループで、私のほうから指示した法律問題に関する研究発表をしてもらいます。

【成績評価の方法】

出席状況・演習における貢献度によります。

【教科書】

授業において指示します。

【参考文献】

授業において指示します。

【備考】

演習ですので、原則、出席が条件です。

か
行

科 目 名			
教育学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	2単位	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を内容とする。

教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。

その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。

教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。

毎回、下記の参考文献の内容に対応したプリントを配布するが、途中入室者には講義終了後となるので注意してほしい。

質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。遠慮なくどうぞ。

【講義計画】

1. 教育の一般的定義と教育の困難性
2. 人間の教育必要性
3. 人間の教育可能性
4. 人間の想像性・創造性
5. 遺伝×環境×?
6. 生涯学習の可能性と必要性
7. 教育上の人間関係
8. 近代教育の原理「合自然」
9. ルソーによる「子どもの発見」
10. 「合自然」の流れと反「合自然」
11. 児童中心主義とデューイ教育学
12. 連続の教育と非連続の教育
13. 「権力作用としての教育」

【成績評価の方法】

論述試験による。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

【備考】

毎回、参考文献の内容にほぼ対応したプリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後まで配布しませんので注意してください。

質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。遠慮なくどうぞ。

科 目 名			
教育実習 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	3単位	冷 水 啓 子
02	春学期	3単位	島 田 勝 正
03	春学期	3単位	林 田 陸 雄
04	春学期	3単位	島 田 勝 正

【講義概要・学習目標】

「教育実習I」は、教職課程で履修してきた学習内容を、現実の教育現場に立って体験する実習校での実地実習とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」で定められている3単位となる。この科目は、中学校教諭普通免許状、高等学校教諭普通免許状取得に共通する必修科目である。中学校教諭普通免許状取得のためには、別に「教育実習II」も登録しなければならない。

学内の事前実習では、模擬授業と相互批評を繰り返し、十分な準備を行う。実地実習では、実際の学校現場で、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験する。教育実習では教員としての社会的責任が求められる。このことが自覚できない場合、あるいは、教員に必要な要件が満たせない場合、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価を拒否されることもある。学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、真摯な態度で臨むことが必要である。学内の事後実習では、自分の実習経験を発表し合ったり、本学の卒業教員の講話を聞いたりするなかで、実地実習の総括反省を行う。

なお、この「教育実習I」では、病気または事故など正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められない。

【講義計画】

1. ガイダンス
2. 模擬授業
3. 模擬授業
4. 模擬授業
5. 模擬授業
6. 模擬授業
7. 模擬授業
8. 実地実習
9. 実地実習
10. 実習体験報告
11. 実習体験報告
13. 卒業生教員の講話
14. 総括・反省

【成績評価の方法】

教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして—教職課程履修ガイド [2005年度改訂版—]』

池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』（学文社）

白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
教育実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	島 田 勝 正

【講義概要・学習目標】

「教育実習Ⅱ」は「教育実習Ⅰ」とともに、中学校教諭普通免許状取得のための必修科目である。「教育実習Ⅰ」と合わせて「教育職員免許法施行規則」で定められている5単位となる。

「教育実習Ⅱ」では、教職課程で学んできた内容のうち、とりわけ生徒指導や特別活動など、教科外での活動や指導について、現実の学校現場において実地に体験することを主たる目的としている。

「教育実習Ⅱ」の実施形態には、春学期の「教育実習Ⅰ」（学内実習を除いて2週間）と連続してさらに2単位相当時間（一般に+1週間）実施するものと、「教育実習Ⅰ」とは別に、本学の地域連携実習協力校において、年間を通して2単位相当時間を実施するものがある。どちらになるかは、実習校が内諾した期間（2週間あるいは3週間）によって決まるので（2週間の場合は後者となる）、3年次の実習依頼時に中学校（場合によっては高等学校）側とよく相談しておく必要がある。

いずれの形態をとる場合でも、中学校教諭普通免許状取得希望者は、4年次春学期に行なう履修登録では、必ず「教育実習Ⅱ」の登録をしておかねばならない。

実地実習においては、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験するが、それには当然のこととして教員としての社会的責任の自覚が要求される。その自覚のない場合には、実習を途中で打ち切られたり、評価を拒否されたりすることもある。校長をはじめ各教員の指導によく従い、真摯な態度で臨む必要がある。

なお、この「教育実習Ⅱ」では、病気または事故など正当な理由がない限り、遅刻・早退、欠席は認められない。

【講義計画】

最初のガイダンス、終了時の総括・反省以外、すべて学校現場での実施実習

【成績評価の方法】

教育実習評価表（実習校による評価）、教育実習ノート（実習の記録）、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして－教職課程履修ガイド [2005年度改訂版－]』
池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』（学文社）
白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

科 目 名			
教育社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4単位	山 内 乾 史

【講義概要・学習目標】

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から据えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。

また、発展途上国の教育問題もアジア、特に中国とインドを中心にわたってお話します。

講義は多人数になることが予想されるので、ビデオによる資料提示が多くなることと思います。

細かい点については、詳しいシラバスを第1回授業時に配布して説明します。

【講義計画】

1. イントロダクション
2. 教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて
3. 日本における学歴社会論（1）－（3）
4. アメリカ合衆国の教育史（1）－（3）
5. イギリスの教育史（1）－（3）
6. 日本における学力低下問題と改革（1）－（3）
7. アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（1）－（2）
8. イギリスにおける学力低下問題と改革（1）－（2）
9. 日本における大学改革と教育機会の変化（1）－（2）
10. アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（1）－（2）
11. イギリスにおける大学改革（1）－（2）
12. 発展途上諸国の教育（1）－（2）
13. よい教師とは？（1）－（3）
14. 教育社会学とは？（まとめ）

【成績評価の方法】

成績評価は試験（70%）と授業終了時に課すレポート（30%）によります。一回欠席毎に10点減点。具体的な方法については講義の時に指示します。ただし、4回以上欠席の学生には受講資格を認めません。

【教科書】

麻生誠・山内乾史編『21世紀のエリート像』（学文社、2004年）

【参考文献】

山内乾史編『教育開発と教育協力の社会学』（ミネルヴァ書房、2007年）
広田照幸監修、山内乾史・原清治編『学力問題・ゆとり教育（リーディングス日本の教育と社会第1期第1巻）』（日本図書センター、2006年）

【備考】

E・SW・B・L・LE・LI・J生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

科 目 名			
教育心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

近年、学校では、不登校やいじめに加え、授業中私語に興じて教師の話を受けない、無断で立ち歩いたりふざけ合ったりして授業に集中できない、我慢ができず些細なことですぐにキレる、といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では、このように日常起こりうる困難な事態に直面したとき、教師はどのように対処すればよいであろうか。適切な対応をするためには、子どもの発達の様相や一般的な教授・学習方法に精通しているうえに、さまざまな発達障害、心理障害、問題行動への臨床援助に関する基礎的知識・理解やセンスをも併せもつ必要がある。平常授業を円滑に運営するだけでなく、問題の発生を未然に防いだり、起こった問題の原因を究明して迅速に解決へ導いたりするための知識・技能、柔軟な判断能力や根気強い態度が、教師には必要とされているのである。

そこで、この「教育心理学」では、生涯発達の観点から「乳幼児、児童・生徒の心身の発達および学習の過程」に関する理論と教育臨床活動について学び、実践的指導力を身につけるための基礎作りをめざす。講義中心の授業となるが、学外研修（地域連携教育活動Ⅰ・Ⅱ）などに積極的に参加し、授業で習得した知識を実践的に確かめていってほしい。

なお、これは、教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【講義計画】

1. はじめに
2. 生涯発達心理学
3. 発達の原理
4. 発達段階理論：フロイトとエリクソンの人格発達理論
5. 発達段階理論：ピアジェの認知発達理論
6. 乳幼児期における心身の発達と学習
7. 発達障害とその臨床援助（1）
8. 発達障害とその臨床援助（2）
9. 児童期・思春期の心身の発達と学習
10. 児童期・思春期の心理障害と臨床援助
11. 特別支援教育
12. 青年期の心理発達と学習
13. 青年期の心理障害と臨床援助

〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を個人で購入するか本学図書館から借りるかして、予習・復習の際に活用すること。

【参考文献】

- ・APA（編）高橋他（訳）『DSM-IV—精神疾患の分類と診断の手引き—』（医学書院）
- ・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
- ・下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）

科 目 名			
教育相談			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	和 知 富 士 子

【講義概要・学習目標】

現代社会の諸矛盾は、間接・直接に子どもたちを強いストレス下に置いており、その結果として、いじめや不登校などの問題行動や神経症・心身症が小学生の段階から現出している。

また、近年増加している児童虐待、災害、犯罪被害に関連しても心のケアが注目されている。

子どもたちが抱えている諸問題を教育相談という観点からとらえなおし、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談として位置付けたい。

本講義では、心の健康であるメンタルヘルスの基礎理論をはじめとして、思春期に見られる問題行動などについて、社会現象や個別の事例を交えて説明する。また、子どもへの援助における基本姿勢とされるカウンセリングの基礎理論を、体験的学習を通じて学ぶ。

【講義計画】

1. 導入
生徒指導と教育相談
2. 生徒指導の位置づけ
大阪府下S市教育委員会の実践
3. 教育相談の実際（問題別）
 - （1）不登校
 - （2）いじめ
 - （3）児童虐待
 - （4）非行
4. 障害児（軽度発達障害等）
5. 精神・行動の障害
6. 心理療法の基礎
7. カウンセリングの実際1
8. カウンセリングの実際2
9. カウンセリングの実際3
10. 外部の相談機関、医療機関
11. アセスメント方法
12. まとめ

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし欠席、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象にしない。

【教科書】

授業の進行にしたがってそのつどプリントを渡す。

【参考文献】

- 高野清純 監修 佐々木雄二 編
「図で読む心理学 生徒指導・教育相談」福村出版

科 目 名			
教育法規			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	秋学期	2単位	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の社会的・制度的な事項として教育法規をとりあげ

る。
教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠なものとなってきた。

法令というのは体系的なものなので、その学習も体系的・逐条的にすべきではあるが、単調さを避けるために、この講義では主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。

【講義計画】

1. 教育法規の種類および憲法の教育条項
2. 教育基本法
3. 義務教育をめぐる諸問題（1）
4. 義務教育をめぐる諸問題（2）
5. 学校教育と学習指導要領
6. 指導要録の作成目的
7. 教育法規と教師（1）
8. 教育法規と教師（2）
9. 教育法規と教師（3）
10. 教科書と教育法規
11. 学校保健・給食と教育法規
12. 情報公開・国際化と教育
13. 勅令主義・法律主義をめぐる問題

【成績評価の方法】

試験による（穴埋めおよび論述）。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

【備考】

毎回、プリントを使用しますが、途中入室者には講義終了後にしか配布しません。講義内容は、下記の参考文献に含まれる事項も多いです。質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。積極的にお願いたします。

科 目 名			
教育方法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

この「教育方法学」では、従来の反復練習に基づく学習とともに、知的好奇心や探求心に導かれながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とはどのようなものかを考える。現行の学習指導要領では、「生きる力」の育成が重視されているが、それは「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」といった側面を持つ。そこで、このような子どもの学習能力（「確かな学力」を育成するために必要とされる「教育の方法および技術」に関する理論とその活用法を学び、子どもが「わかる授業」とはどのようなものかを探求したい。

具体的には、はじめに、教授・学習活動および教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲を促進させる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習過程を支援するためにコンピュータの教育利用を取り上げ、その利用の仕方や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に理解する。

なお、これは教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講に際し、各自 Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【講義計画】

1. はじめに：「確かな学力」の育成と「わかる授業」をめざして
2. 学習とはなにか
3. 学習理論（1）：条件づけと行動療法
4. 学習理論（2）：認知理論と観察学習
5. 学習と認知：推論と問題解決
6. 学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と内発的動機づけ
7. 授業における教授・学習過程
8. 個人差と学習指導
9. 教育測定と学習評価
10. 心理テストの利用
11. コンピュータの教育利用：その理論と技法
12. コンピュータ実習（1）：インターネットの教育利用に関する諸問題
13. コンピュータ実習（2）：コンピュータを活用したレポートの作成

〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じてレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を個人で購入するか本学図書館から借りるかして、予習・復習の際に活用すること。

【参考文献】

- ・市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策—』（小学館）
- ・桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2007年度版）
- ・大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会）
- ・下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）
- ・多鹿秀継（著）『教育心理学』サイエンス社

科 目 名			
教職演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	冷 水 啓 子
02	秋学期	2単位	島 田 勝 正
03	秋学期	2単位	林 陸 雄
04	秋学期	2単位	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

国際化時代・グローバル化時代の今日、世界の人々の日常生活が国境を越えて多様に影響し合っている事実を認識し、国際社会と関わり合っていく感性と行動力を育成することは、世界市民を目指す本学の学生にとって極めて重要な課題である。教職を目指し、時代を担う児童・生徒の育成に携わろうとするものには、なおさらのこと、この感性と行動力の育成は不可欠の課題であるといえる。

この演習の大テーマは、「人類に共通する地球的課題とは何か」ということであるが、個別テーマとしては、人間尊重・人権尊重の精神を基礎に、①「異文化理解」（国際理解、国内異文化理解、民族対立、地域紛争と難民など）②「環境問題」（ゴミ、電磁波、化学物質、人口と食料など）③「人権・福祉」（男女共同参画、少子化、高齢化、障害者理解と共生、家庭のあり方など）④「情報化社会」（携帯電話、インターネット、個人情報保護など）等が考えられる。

各自はいずれかの個別課題を選択したうえでグループに分かれ、各グループ内で検討した内容を模擬授業形式で発表しつつ、それらの内容をグループの共同責任の形で授業案にまとめ、最後に授業案に基づく研究授業を行なう。

【講義計画】

1. オリエンテーション。班と大テーマ、各班員の小テーマ、各授業日進行係、各班員によるミニ授業日程などの決定。
2. 教育問題関連ビデオの視聴と討議
3. 各班員によるミニ授業・ミニ研究発表
4. 各班員によるミニ授業・ミニ研究発表
5. 各班員によるミニ授業・ミニ研究発表
6. 各班員によるミニ授業・ミニ研究発表
7. 各班員によるミニ授業・ミニ研究発表
8. 授業案・教材の作成（各班におけるグループ作業）
9. 授業案・教材の作成（各班におけるグループ作業）
10. 各班による研究授業
11. 各班による研究授業
12. 各班による研究授業
13. 各班による研究授業
14. 総括・反省

【成績評価の方法】

出席、発表、討議への参加度、授業案、研究授業、最終レポートなどによって総合的に評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

その都度、紹介する。

科 目 名			
教職概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	林 陸 雄
02	秋学期		

【講義概要・学習目標】

この科目で求められていることは、教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化である。生徒の成長を援助し、その成長をもって自己の喜びとする仕事が教職である。そのための基本的な思想・感性・知識・技能を修得していくためのガイドラインとして、この科目が位置づけられている。

必要に応じて、視聴覚教材を使用し、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。毎回、教育問題のトピックを取り上げ、教育時事問題についての認識を深め広める。

履修する以上、教職に就くという強い目的意識をもって受講してほしい。各種の地域連携教育活動への参加を奨励する。

【講義計画】

1. なぜ教職を志望するのか
2. どのような教師像を目指すのか
3. 教員の職務
4. 教員の任務
5. 教員の専門性
6. 教員の権利と報酬
7. 教員の研修
8. 教育実習
9. 教育をめぐる人々
10. 期待される教員の役割
11. 教員になるための計画作成

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。

【教科書】

田井康雄 編『教育職の研究』、学術図書出版、ISBN 4-87361-592-5 C3037、定価¥ 2200E

【参考文献】

授業中に、適宜紹介する。

科 目 名			
行政法Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。それゆえ、行政法の数は多く、現行法規の80%を占める。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開制度についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法＝国家賠償についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらう。憲法、民法を履修した上で、受講してほしい。

【講義計画】

- 1 取消訴訟の一つの判決
- 2 情報公開制度
- 3 取消訴訟の概略
- 4 国家賠償
- 5 法律による行政法の原理
- 6 行政組織と行政立法
- 7 行政行為の概念と種類
- 8 行政行為の瑕疵
- 9 職権取消と撤回
- 10 行政手続
- 11 行政計画
- 12 行政強制
- 13 行政調査
- 14 行政指導

【成績評価の方法】

基本的には、テストで成績評価を行う。毎回提出してもらうチェックペーパー等も評価に加味する。期末テストと同等の評価対象である中間テストを春学期の中間時期に行う。

【教科書】

小高剛・寺田友子・由喜門眞治・牛嶋仁『行政法総論』2006年ぎょうせい
『ポケット六法 平成19年版』(2006年・有斐閣)

【参考文献】

『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ (第5版)』2006年・有斐閣
塩野宏『行政法Ⅰ (第4版)』2005年・有斐閣
原田尚彦『行政法要論 (第6版)』2005年・学陽書房
芝池義一編『判例行政法入門 (第3版)』2005年・有斐閣

科 目 名			
行政法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

多様な内容をもつ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。その理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校といわれる地方自治体の根本規範である「地方自治法」に理解を深めることは、行政法の修得という点だけでなく、民主主義的な国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。更に、そこで勤務する職員の法的地位について理解を深めるために、「地方公務員法」を「国家公務員法」と対比して講義する。「地方自治法」及び「公務員法」を講義する過程で、「行政法Ⅰ」で不十分にしか講義できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について理解を一層深める。地方自治法または公務員法をめぐって生じる「行政行為」等についても、その学問的概念について改めて理解する。又、行政法Ⅰで不十分にしか講義できなかった客観訴訟の1つである基幹訴訟・住民訴訟の判例を素材に地方公務員の地位についても理解を深めたい。春学期において「行政法Ⅰ」を履修して受講することが好ましい。

【講義計画】

地方自治法

- 1 地方自治の本旨とは
- 2 地方公共団体の種類と区域
- 3 地方公共団体の住民
- 4 普通地方公共団体の事務と立法権
- 5 普通地方公共団体の議会
- 6 普通地方公共団体の執行機関
- 7 長と議会との関係
- 8 地方公共団体の財務
- 9 国と地方公共団体との関係

地方公務員法

- 1 公務員の意義
- 2 公務員の種類
- 3 労働基本権の制約
- 4 地方公務員法の特例 (地方公営企業の職員・消防職員・警察職員)
- 5 人事行政機関 (任命権者と人事委員会・公平委員会)
- 6 公務員の任用
- 7 住民訴訟の判例に見る地方公務員の地位

【成績評価の方法】

基本的には、テストで成績評価を行う。期末テストと同等の評価対象である中間テストを秋学期の中間時期に行う。毎回提出してもらうチェックペーパー等も評価に加味する。

【教科書】

『ポケット六法 20年版』(有斐閣 2007年10月出版予定)
別冊ジュリスト『地方自治判例百選 (第3版)』(有斐閣・2003年)

【参考文献】

橋本勇『入門・地方公務員法』最新版・学陽書房
その他、講義中に指示する。

科 目 名			
共通教養特別講義－企業と情報公開			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	バ 朴 テ 大 ヨ ン 栄

【講義概要・学習目標】

企業組織の代表である株式会社法人は、われわれ自然人に対してその集団性から、財力・知力ともにより優位な立場にある。したがって、企業法人には、公人に近い義務と責任があり、多様な利害関係者すなわちステークホルダーを意識した経営が求められている。この企業活動を監視・監督し、健全かつ効率的な経営を実現させるためのコーポレート・ガバナンスが大きな関心事となっている。

コーポレート・ガバナンスの一つが、企業内容の透明性を図ること、すなわち、迅速かつ適切な情報公開である。決算公告や、有価証券報告書の発行、環境報告書の発行などはその一例である。また、開示情報自体の信頼性・適正性も問題となる。財務諸表監査はその役割を担うものである。

本講義においては、企業がコーポレートガバナンスの一環として公開する情報にどのようなものがあるか、その公表理由は何か、情報の信頼性はどのように確保されるのか等、企業の情報公開に焦点を合わせて、その重要性を解説することを目的とする。

【講義計画】

講義の最初に提示する。

【成績評価の方法】

定期試験・講義中の小テストの成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

とくに指定しないが、講義中に資料を配付する。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

科 目 名			
共通教養特別講義－協同社会			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

人間が社会的動物であることは、誰でも知っている。しかし、人間がどのような社会関係を結び、どのように助け合ってきたのかについては、あまり知られていない。人々の関係は、歴史的に大きく変化してきた。これを簡潔に述べるならば、古代社会は強い血縁関係のもとで、人々の結びつきは強かった。しかし、時代を経るに従って、人々の中の絆は徐々に弱くなってきたとすることができるだろう。そして現在、一つの大きな転換期にあると思われる。この講義では、人間が歴史的にどのような社会を形成し、どのように助け合ってきたのかについて学んでいく。

【講義計画】

主に次のような内容で講義を行う。(順不同)

1. 競争と協同 (自然界における協同)
2. 共同体の歴史
3. 共同体の解体
4. 人類史上の転換期
5. 新たな共同体の形成
6. 助け合う社会

【成績評価の方法】

期末テストとレポート等による。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
共通教養特別講義－日本の演劇			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	梅 山 秀 幸

【講義概要・学習目標】

日本には室町時代の能・狂言をはじめとして、江戸時代の人形浄瑠璃および歌舞伎などの伝統的な演劇がある。それらは神事と深いかわりをもつが、ビデオなどを利用しながら、それらに触れ、それらの宗教性および芸術性について考えたい。

【講義計画】

- 1、能・狂言の歴史
- 2、観阿弥の能
- 3、世阿弥の能
- 4、人形浄瑠璃
- 5、歌舞伎
- 6、近松門左衛門と竹本義太夫
- 7、『曾根崎心中』
- 8、『菅原伝授手習鑑』
- 9、『仮名手本忠臣蔵』
- 10、近松半二について

【成績評価の方法】

期末試験によるが、随時、レポートを提出してもらう。

【教科書】

授業時にプリントを配布する。

【参考文献】

授業時に指示する。

科 目 名			
共通自由特別講義－IT活用の実際			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

IT (Information Technology) とは、コンピュータと通信の技術のことです。よく分からない人は、パソコンとインターネットに象徴されるものだと思っても良いでしょう。(詳細はオリエンテーション時に扱います。)

ITは急速に発展し、私たちの社会に深く根付いてきました。本講義では、各業種でICTを活用している皆さんにおいていて、最先端の企業の活用状況を話していただきます。

また、就職活動を4回生になってから準備したのでは間に合わない一因として、実社会の現状を正しく認識する必要があることを踏まえ、余裕があればどのような人材が実社会に必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしています。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とします。

【講義計画】

- 1 回目 オリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。
- 2 回目以降に関しては講義計画執筆時(2006年12月)現在交渉中である。

最終回にまとめを行う。

参考の為に過去の類似科目の実績を下表に示す(順不同)。

<題目>

- ・ITの時代の個人的情報処理
- ・IT活用の実際：クリエイタの立場から
- ・コンピュータのホスティングサービス
- ・全社的セキュリティ対策
- ・企業経営とIT
- ・製鉄業とIT
- ・メディアにおけるコミュニケーション技術

他

<企業>

新日鐵、IBM、松下、ダイキン、ダイエー、東洋アルミニウム、ファーストサーバー、武田薬品工業、テレビ大阪、NTTドコモモバイル社会研究所

他

受講希望者は第一回目のオリエンテーションには出席のこと。尚、講義計画執筆時未定のことについては、担当者のwebサイト (<http://rio.andrew.ac.jp/~tohma/>) で随時公開する。

【成績評価の方法】

毎回の出席・受講態度及び最終レポートに基づき総合的に評価する。

詳細は1回目のオリエンテーション時に説明する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義－ヴェトナム文化事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	蓮 田 隆 志

【講義概要・学習目標】

現代ベトナムについての基礎的知識を獲得するとともに、ベトナム語入門的内容も取り扱う。春学期では、自然との関わりや文化や社会の側面を中心に扱う。

アオザイや美食など、すっかり日本での知名度が上がったベトナムだが、まだまだ知られていない側面が多い。本講義を通じて、バランスのとれた「等身大の他者」としてベトナムを見られるようになって欲しい。

【講義計画】

0. オリエンテーション
1. ベトナムって？：歴史と現在
2. ベトナムの自然環境
3. ムラのベトナム／マチのベトナム
4. ベトナム社会の現状

【成績評価の方法】

期末試験およびコメントカード（詳細は初回に説明する）を基本とするが、受講者数や受講生の希望などを勘案して決定する。

【教科書】

今井昭夫・岩井美佐紀（編著）『現代ベトナムを知るための60章』明石書店

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【備考】

語学部分や基礎基本の部分が重複するが、秋学期と重複履修しても問題が少なくなるよう配慮する。

科 目 名			
共通自由特別講義－ヴェトナム文化事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期	2単位	蓮 田 隆 志

【講義概要・学習目標】

現代ベトナムについての基礎的知識を獲得するとともに、ベトナム語入門的内容も取り扱う。秋学期では、政治や経済を中心に扱う。

近年のイラク問題などを通じて、ベトナム戦争の記憶が一部で蘇りつつある一方で、美食やエスニック小物など、日本でのベトナムイメージは、まだまだ極端で断片的だ。本講義を通じて、バランスのとれた「等身大の他者」としてベトナムを見られるようになって欲しい。

【講義計画】

0. オリエンテーション
1. ベトナムって？：歴史と現在
2. 現代ベトナムの政治
3. 現代ベトナムの経済

【成績評価の方法】

期末試験およびコメントカード（詳細は初回に説明する）を基本とするが、受講者数や受講生の希望などを勘案して決定する。

【教科書】

今井昭夫・岩井美佐紀（編著）『現代ベトナムを知るための60章』明石書店

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【備考】

語学部分や基礎基本の部分が重複するが、春学期と重複履修しても問題が少なくなるよう配慮する。

科 目 名			
共通自由特別講義－海外英語留学準備講座Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	柳 本 麻 美

【講義概要・学習目標】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。半年英語特訓留学希望者は、共通自由特別講義Ⅰ（海外英語留学準備講座Ⅱ）も必ず受講すること。その他の学生も2講座を合わせて受講することが非常に望ましい。

主にリーディングとライティングを中心に、TOEFL iBTに必要な基本スキルの習得、スコアアップを目指す。留学した際に必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは十分ではない。従って、課題も多く、自宅での学習も相当量必要となる。本気で勉強するという覚悟で積極的に授業に参加すること。どのように勉強していくかということは講義中に指示するので、たとえ英語力に自信がない学生であっても、やる気さえあれば力がつく内容である。また、海外事情、留学中の生活についても適宜紹介する。

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるので、試験、講義内容など、対象者中心となることを了解の上、受講のこと。

【講義計画】

テキストにそって授業をすすめる。

【成績評価の方法】

出席、小テスト、模擬テスト、TOEFLスコア、小論文など総合的に判断する。

【教科書】

LONGMAN
Introductory Course for the TOEFL Test: iBT
(アンサーキー付 CD ROMなし)
(ISBN 0-13-228089-2)
その他ハンドアウトを適宜配布する

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

共通自由特別講義（海外英語留学準備講座Ⅰ～Ⅵ）は、ペア科目として授業を運営しているので下記のペアで履修することが望ましい。

I・II（初級）TOEFLスコアPBT 350点、iBTスコア20点レベルを対象とする。

III・IV（中級）TOEFLスコアPBT 400点、iBTスコア32点レベルを対象とする。

V・VI（上級）TOEFLスコアPBT 500点、iBTスコア61点レベルを対象とする。

ただし、各レベルに達していない場合でも、意欲のある学生の履修は歓迎する。

科 目 名			
共通自由特別講義－海外英語留学準備講座Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	柳 本 麻 美

【講義概要・学習目標】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。半年英語特訓留学希望者は、共通自由特別講義Ⅰ（海外英語留学準備講座Ⅱ）も必ず受講すること。その他の学生も2講座を合わせて受講することが非常に望ましい。

主にTOEFL iBTのスピーキングとリスニングに必要な基本スキルの習得、スコアアップを目指す。また、留学した際、大学の授業を理解し、自分の意見を論理的に述べることができる英語力を養うことを目指す。英語を聞く、話すことはまず慣れることである。講義に参加するだけでは十分ではない。毎日勉強するつもりで取り組む覚悟で受講すること。どのように学習していけば効果的であるかは講義中に指示するので、意欲のある学生であれば、半年の講義で力がつくと期待する。海外事情、留学中の生活についても適宜紹介する。

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるので、試験、講義内容など、対象者中心となることを了解の上、受講のこと。

【講義計画】

テキストにそって授業をすすめる。

【成績評価の方法】

出席、小テスト、模擬テスト、TOEFLスコア、小論文など総合的に判断する。

【教科書】

LONGMAN
Introductory Course for the TOEFL Test: iBT
(アンサーキー付 CD ROMなし)
(ISBN 0-13-228089-2)
その他ハンドアウトを適宜配布する

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

共通自由特別講義（海外英語留学準備講座Ⅰ～Ⅵ）は、ペア科目として授業を運営しているので下記のペアで履修することが望ましい。

I・II（初級）TOEFLスコアPBT 350点、iBTスコア20点レベルを対象とする。

III・IV（中級）TOEFLスコアPBT 400点、iBTスコア32点レベルを対象とする。

V・VI（上級）TOEFLスコアPBT 500点、iBTスコア61点レベルを対象とする。

ただし、各レベルに達していない場合でも、意欲のある学生の履修は歓迎する。

科 目 名			
共通自由特別講義－海外英語留学準備講座Ⅲ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	村 瀬 寿 代
02	秋学期		

【講義概要・学習目標】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。半年英語特訓留学希望者は、共通自由特別講義－(海外英語留学準備講座)Ⅳも必ず受講すること。その他の学生も2講座を合わせて受講することが非常に望ましい。主にリーディングとライティングを中心に、TOEFL iBTのスコアアップを目指す。留学した際、必要となるリーディング力、ライティング力を身につけるためには、講義に参加するだけでは到底不可能である。従って、課題も多く、自宅での学習も相当量必要となる。また、勉強を本気でやるという覚悟を持って積極的に授業に参加すること。どのように勉強していくかということは、講義中に指示するので、たとえ英語力に自信がない学生であっても、やる気さえあれば力がつく内容である。また、海外事情、留学中の生活なども適宜紹介する。半年英語特訓留学予定者対象の講義であるので、試験、講義内容など、対象者中心となることを了解の上、受講のこと。

【講義計画】

テキストにそって授業をすすめる。

【成績評価の方法】

出席、模擬テスト、TOEFLスコア、小論文等総合的に判断する。

【教科書】

LONGMAN Preparation Course for the TOEFL TEST iBT (CD ROMとアンサーキー付)
(ISBN 0-13-193290-X)
その他ハンドアウトを適宜配布する。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

共通自由特別講義(海外英語留学準備講座Ⅰ～Ⅵ)はペア科目として授業を運営しているので、下記のペアで履修することが望ましい。
Ⅰ・Ⅱ(初級) TOEFLスコアPBT350点、iBTスコア20点レベルを対象とする。
Ⅲ・Ⅳ(中級) TOEFLスコアPBT400点、iBTスコア32点レベルを対象とする。
Ⅴ・Ⅵ(上級) TOEFLスコアPBT500点、iBTスコア61点レベルを対象とする。
ただし、各レベルに達していない場合でも、意欲のある学生の履修は歓迎する。

科 目 名			
共通自由特別講義－海外英語留学準備講座Ⅳ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	村 瀬 寿 代
02	秋学期		

【講義概要・学習目標】

半年英語特訓留学希望者を主に対象とする講座であるが、留学に通用する英語を学びたい、留学に必要な知識を得たいという学生も対象とする。半年英語特訓留学希望者は、共通自由特別講義－(海外英語留学準備講座)Ⅲも必ず受講すること。また、その他の学生も2講座を合わせて受講することが非常に望ましい。主にスピーキングとリスニングであるが、TOEFL iBTのスコアアップはもちろんのこと、大学の授業を理解し、自分の意見を論理的に述べることができる英語力を養うことを目的とする。英語を聞く、話すことは、何よりもまず慣れることである。講義に参加するだけでは不十分であるのは言うまでもない。毎日勉強するつもりで取り組む覚悟で受講すること。どのように学習していけば効果的であるのかは、講義中に指示するので、意欲がある学生であれば、半年の講義で相当の力がつくと期待する。また、海外事情、留学中の生活なども紹介する。

【講義計画】

テキストにそって授業をすすめる。

【成績評価の方法】

出席、模擬テスト、TOEFLスコア、課題等総合的に判断する。

【教科書】

LONGMAN Preparation Course for the TOEFL TEST iBT (CD ROMとアンサーキー付)
(ISBN 0-13-193290-X)
その他ハンドアウトを適宜配布する。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

共通自由特別講義(海外英語留学準備講座Ⅰ～Ⅵ)はペア科目として授業を運営しているので、下記のペアで履修することが望ましい。
Ⅰ・Ⅱ(初級) TOEFLスコアPBT350点、iBTスコア20点レベルを対象とする。
Ⅲ・Ⅳ(中級) TOEFLスコアPBT400点、iBTスコア32点レベルを対象とする。
Ⅴ・Ⅵ(上級) TOEFLスコアPBT500点、iBTスコア61点レベルを対象とする。
ただし、各レベルに達していない場合でも、意欲のある学生の履修は歓迎する。

科 目 名			
共通自由特別講義－海外英語留学準備講座V			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	村 瀬 寿 代

【講義概要・学習目標】

長期留学希望者を主に対象とする講座であるが、半年英語特訓を目指す学生、更に英語力を伸ばしたいという学生も対象とする。共通自由特別講義－（海外英語留学準備講座）VIも合わせて受講することが望ましい。主にリーディングとライティングを中心にすすめる。長期留学には少なくともTOEFL iBT 61点（PBT 500点）が必要であるので、それ以上のスコアを目指すとともに、留学した際必要となるアカデミックなリーディング力、ライティング力を養うことを目指す。講義に参加するだけでは目標スコア達成は困難であり、小論文などの課題、自宅での学習は相当量必要となる。TOEFL iBTに関して、あらかじめ、ある程度の知識を得ておくことが望ましい。半年間、本気で勉強したいと考えている学生は、たとえ英語力に自信がなくとも挑戦してほしい。

【講義計画】

テキストにそって授業をすすめる。

【成績評価の方法】

出席、模擬テスト、TOEFLスコア、小論文等総合的に判断する。

【教科書】

THOMSON The Complete Guide to the TOEFL Test iBT Edition (CD ROMとオーディオCD付、アンサーキーなし) (ISBN 978-14130-23053) 注：テキストはCDとあわせて特別価格での販売となるので、必ず桃山学院大学生協で購入すること。その他ハンドアウトを適宜配布する。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

共通自由特別講義（海外英語留学準備講座Ⅰ～Ⅵ）はペア科目として授業を運営しているので、下記のペアで履修することが望ましい。

I・II（初級）TOEFLスコアPBT350点、iBTスコア20点レベルを対象とする。

III・IV（中級）TOEFLスコアPBT400点、iBTスコア32点レベルを対象とする。

V・VI（上級）TOEFLスコアPBT500点、iBTスコア61点レベルを対象とする。

ただし、各レベルに達していない場合でも、意欲のある学生の履修は歓迎する。

科 目 名			
共通自由特別講義－海外英語留学準備講座VI			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	村 瀬 寿 代

【講義概要・学習目標】

長期留学希望者を主に対象とする講座であるが、半年英語特訓を目指す学生、更に英語力を伸ばしたいという学生も対象とする。共通自由特別講義－（海外英語留学準備講座）Vも合わせて受講することが望ましい。主にスピーキングとリスニングを中心にすすめる。長期留学には少なくともTOEFL iBT 61点（PBT 500点）が必要であるので、それ以上のスコアを目指すとともに、留学した際必要となるスピーキング力、リスニング力を養うことを目指す。単なる英会話ではなく、理解し要約する、論理的に意見を述べるなどアカデミックな内容であることを了解した上受講すること。また、講義に参加するだけでは目標スコア達成は困難であり、小論文などの課題、自宅での学習は相当量必要となる。TOEFL iBTに関して、あらかじめ、ある程度の知識を得ておくことが望ましい。半年間、本気で勉強したいと考えている学生は、たとえ英語力に自信がなくとも挑戦してほしい。

【講義計画】

テキストにそって授業をすすめる。

【成績評価の方法】

出席、模擬テスト、TOEFLスコア、課題等総合的に判断する。

【教科書】

THOMSON The Complete Guide to the TOEFL Test iBT Edition (CD ROMとオーディオCD付、アンサーキーなし) (ISBN 978-14130-23053) 注：テキストはCDとあわせて特別価格での販売となるので、必ず桃山学院大学生協で購入すること。その他ハンドアウトを適宜配布する。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

共通自由特別講義（海外英語留学準備講座Ⅰ～Ⅵ）はペア科目として授業を運営しているので、下記のペアで履修することが望ましい。

I・II（初級）TOEFLスコアPBT350点、iBTスコア20点レベルを対象とする。

III・IV（中級）TOEFLスコアPBT400点、iBTスコア32点レベルを対象とする。

V・VI（上級）TOEFLスコアPBT500点、iBTスコア61点レベルを対象とする。

ただし、各レベルに達していない場合でも、意欲のある学生の履修は歓迎する。

科 目 名			
共通自由特別講義—海外留学事情			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	野 原 康 弘
02	秋学期		

【講義概要・学習目標】

桃山学院大学は、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリアにいくつもの協定校をもち、そうした協定校への長期留学、各国での短期語学研修、さら日本語教育実習や国際ボランティア活動など多様なプログラムを実施しています。この講義ではこうしたプログラムへの参加を希望する学生のために、外国語の学習法、各国の大学・社会事情、留学・研修の意義、将来の展望など、各国の事情をよくご存知の先生方に順番に講義していただきます。

留学は若い学生諸君にとって特別の体験です。外国語と異文化のなかで苦勞しつつ、しかし日本にいたのでは分からない多くのことを学べます。自分では信じられないほど勉強する機会にもなるでしょう。そんな体験をより多くの学生にしてほしいと思います。そのためにこの講義では、海外留学にかんする学生の漠然とした不安を取り除き、明確な課題を見出すことを目標にしました。

【講義計画】

- I) 導入：桃山学院大学での留学・研修の可能性について
- II) 外国語学習の方法と体験
- III) 各国事情：英語圏、中国、台湾、韓国、ロシア、インドネシア、フランス、イタリア、ドイツなど
日本語教育実習
国際ボランティア活動

(ゲスト講師の都合によって、各国事情の順番を変更する場合があります。)

【成績評価の方法】

出席と学期末のレポートで総合的に判断します。

【教科書】

使用しません。

【参考文献】

必要があれば、講義中に指示します。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義—キャリアデザイン I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	野 口 由 輝 子
02	春学期	2単位	
03	春学期	2単位	
04	春学期	2単位	
05	秋学期	2単位	
06	秋学期	2単位	
07	秋学期	2単位	
08	秋学期	2単位	

【講義概要・学習目標】

本講義の目的は、社会人生活の前哨戦である大学での生き方を受講生一人ひとりがキャリアデザインし、手ごたえのある豊かなものにし実践に向けていくことです。その方法としては、将来自らが望む社会人をイメージしたうえで、学生生活を具体的に充実させるための手法を学び、受講生自身がパーソナルレベルでそれを考え抜き、現実的なものにしていけるようにファシリテートしていきます。同時に、キャリアデザインに必要な知識の習得とスキル開発を実施していきます。

【講義計画】

- 1. 大学生のためのキャリアデザインへの理解
- 2. 大学生活を充溢させるコツ
- 3. 豊かな大学生活に向けてのキャリアデザイン
- 4. キャリアデザインのプレゼンテーション
- 5. キャリアデザインに不可欠なワークスタイルの研究
- 6. キャリアデザインに求められる能力開発

【成績評価の方法】

出席率・講義への参加度・レポート等による総合評価で判断します。

【教科書】

MY CAREER NOTE I (ベネッセコーポレーション)
必要に応じてプリント配布

【参考文献】

講義中に適宜指示します。

科 目 名			
共通自由特別講義－キャリアデザインⅡ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2単位	中 山 一 郎
02	春学期	2単位	
03	春学期	2単位	
04	春学期	2単位	
05	秋学期	2単位	
06	秋学期	2単位	
07	秋学期	2単位	
08	秋学期	2単位	

【講義概要・学習目標】

これからの“新しい時代”や“新しい社会”を生き抜くために必要とされる知恵やスキルのことを「キャリアデザイン力」とよびます。この「キャリアデザイン力」を“3つの行動、4つの力”というものに集約し、一つひとつを具体的に学習しながら身に付けていきます。講義は「参加型」「体験型」というスタイルでおこない、“知識を教える講義”ではなく“知恵に気付く講義”を実践していきます。最終の学習目標としては、きたるべき卒業後の進路選択から就職活動などへ向けて、まずは自らの頭で考え、行動し、選択していけるような態度や能力を身に付けることです。“自己を確立して大人になる”ための講義です。

【講義計画】

全14回の講義を通して、
3つの行動・・・「自ら課題を発見する」「自ら解決策を考える」「自ら周囲を巻き込み行動する」
4つの力・・・「情報収集力」「思考力」「コミュニケーション力」「遂行力」

という「キャリアデザイン力」の基本的な知恵やスキルを、ガイダンスだけではなくワークやグループディスカッションなどをおこないながら、実際に参加し体験しながら身に付けていきます。毎回講義の終わりに「コミュニケーションシート」という約300字程度の感想文を書いてもらいます。

【成績評価の方法】

- ・コミュニケーションシート（毎回の講義で気付いたことを簡潔に書く感想文を提出）70%
- ・行動計画書（進路選択や就職活動に向けた目標設定書のプレゼンテーションと提出）30%

【教科書】

- ・『MY CAREER NOTE Ⅱ』（株式会社ベネッセコーポレーション）
- ・必要に応じて適宜プリントを配布します

【参考文献】

- ・必要に応じて適宜紹介します

科 目 名			
共通自由特別講義－職業を考える			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	黒 田 隆 之

【講義概要・学習目標】

皆さんは卒業後の就職のことを考えていますか。しっかりとした目標を持っている人、よくわからないけれどそろそろ考えないといけないと思っている人、大学生活が楽しくて就職なんて考えられない人、悩んで迷っている人、いろいろな状況の人がいると思います。しかし、ほとんどの人の場合、卒業・就職後の長い人生の時間の多くは働くということに関わってきます。すなわち「職業を考える」ことは、これからの生き方を考えることにつながるということです。

本講義では、本学の卒業生を含めて、いくつかの業界の現役の職業人の方に講師として来ていただき、業界の現状、企業組織の特徴、仕事の内容の独自性などさまざまな体験を講義していただきます。講義を通して、働くことの意味やその実態について学び、自分自身のライフプランやキャリアプランを考えてもらうことを学習目標とします。

なお、講義内容の性格上、春学期開講クラスは3回生のみ受講可能、秋学期開講クラスは2回生のみ受講可能となっていますので注意してください。

【講義計画】

①オリエンテーション

授業の進め方を説明するとともに、授業を効果的に進めるために受講生が守らなければならないルールを説明します。

②各業界の講義

公務員、製菓、製薬、運輸、教育、マスコミ、機械、金融、住宅など

上記は2006年度の実績です。2007年度は講師の都合等により変更する場合があります。

③全体のまとめ

講義を通して、どのようなことを理解し、どのようなことを考えるようになったか、ということをもとめます。

【成績評価の方法】

出席、レポート、期末テストの総合評価。

【教科書】

必要に応じて授業時に指示する。

【参考文献】

必要に応じて授業時に指示する。

【備考】

春学期開講クラスは3回生のみ受講可能。
秋学期開講クラスは2回生のみ受講可能。
インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義－職業を考える・福祉			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

社会福祉学科卒業後、職業人として活動する場としての社会福祉施設、社会福祉機関、NPOなどの現場で働く人の話を聞き、自身の職業観を身につけると共に、大学生活で学ぶ目的を明確にする。

【講義計画】

1. 大学生活と就職
2. 福祉職場の概要
3. 高齢者・障害者・児童施設 1
4. 高齢者・障害者・児童施設 2
5. 高齢者・障害者・児童施設 3
6. 地域福祉の現場 1
7. 地域福祉の現場 2
8. NPO/NGO
9. 社会福祉機関・行政
10. 精神保健福祉現場
11. 病院
12. 職業観と大学で学ぶこと

【成績評価の方法】

出席とレポート

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義－日本アニメの諸相			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	藤 森 かよ子

【講義概要・学習目標】

In this course the major works of four representative Japanese animation creators--Osamu Tezuka, Hayao Miyazaki, Katsuhiro Otomo and Mamoru Oshii--will be examined and analyzed. The discussion will be developed according to the comments you are required to submit every class. Your opinions and insights are expected to contribute to the success of this course.

To learn Japanese high culture enables you to perceive Japanese ethics and aesthetic: How Japanese people have been thinking about what Japanese people should be and what they should do.

To experience Japanese low culture (pop culture) helps you to grasp the desires and dreams which Japanese people subconsciously hold: what they are and what they want to be. ANIME is one of the most informative materials for you to profoundly understand Japan and Japanese people, whether you are Japanese or no-Japanese. In general desires and dreams seem absurd and foolish. That's human!

【講義計画】

Lecture 1: A Short history of MANGA as an origin of ANIME
 Lecture 2: ANIME before World War II and that before Osamu Tezuka
 Lecture 3--Lecture 6: Osamu Tezuka
 Lecture 7--Lecture 10: Hayao Miyazaki
 Lecture11: Katsuhiro Ohtomo
 Lecture12--Lecture13: Mamoru Oshii
 Lecture14: Summing up ANIME

【成績評価の方法】

Assessment will be based on classroom participation, comment papers you are required to submit every class and one semester-end paper. Classroom participation 20 % comment papers 30% The semester-end paper 50%

【教科書】

No textbook.

【参考文献】

Frederic L. Schodt. The World of Japanese Comics. Kodansha, 1983.

Helen McCarthy, Hayao Miyazaki, Master of Japanese Animation. Stone Bridge Press, 1999.

Annie Allison. Permitted and Prohibited Desires: Mothers, Comics, and Censorship in Japan. U of California P, 2000.

Jonathan Clements & Helen McCarthy, The Anime Encyclopedia: A Guide to Japanese Animation Since 1917. Stone Bridge Press, 2001.

Susan J. Napier, ANIME: from Akira to Princess Mononoke. Palgrave Macmillan, 2001.

Brian Ruh, Stray Dog of Anime: The Films of Mamoru Oshii. Palgrave Macmillan, 2004

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
共通自由特別講義－フィールドワーク入門			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

地域社会でのフィールドワークを積極的に行なう、意欲的な学生を養成することを目標に、新たに設定された科目である。社会学の対象領域についてのリサーチ（調査・検証）作業や、データ（情報）収集、アンケート集計とその分析についての、方法論を概説する講義や、地域社会の様々な現場で、実践的な活動を行なっている、複数の外部講師によって、その体験の紹介が行なわれる。本講義は新しく設けられた試行的な科目なので、試行錯誤の連続となるかもしれない。受講生はそのことを踏まえて、意欲をもって参加して欲しい。

【講義計画】

複数の学内・学外のゲスト講師によって、フィールドワークに向けての基礎的な心構えや、現場の状況についての紹介が行なわれる。

【成績評価の方法】

毎回の出席と、最後に、フィールドワークに向けてのシミュレーション（模擬レポート）の作成を課す。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

特に定めない。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義－フィールドワーク方法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	深 澤 徹

【講義概要・学習目標】

本講義は、春学期に開講される「フィールドワーク入門」をすでに受講しているものを対象として行なわれる。したがって「フィールドワーク入門」をあらかじめ受講しておくことが望ましい。「フィールドワーク入門」での知識を踏まえ、本講義では具体的な現場（フィールド）での様々な方法論を学ぶ。社会学の対象領域についてのリサーチ（調査・検証）作業や、データ（情報）収集、アンケート集計とその分析についての、方法論を概説する講義や、地域社会の様々な現場で、実践的な活動を行なっている、複数の外部講師によって、その体験やノウハウの紹介が行なわれる。

【講義計画】

複数の学内・学外のゲスト講師によって、フィールドワークに向けての基礎的な心構えや、現場の状況についての紹介、さらには活動のノウハウについての講義が行なわれる。

【成績評価の方法】

毎回の出席と、最後に、講義内容に関連した地域社会の現場（そのフィールドは各人の自由選択に任せる）を実地に体験（ワーク）し、それを踏まえたレポートを課す。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

特に定めない。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
共通自由特別講義－宮崎アニメの世界			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	取 屋 淳 子

【講義概要・学習目標】

“Anime” (Japanese Animation) has become popular worldwide in recent years, and Miyazaki Hayao ranks among the most interesting and acclaimed directors because of the originality of his works.

This course will look at a number of Miyazaki’s movies including “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, and “Spirited Away” from various angles. In addition to Miyazaki’s works, other Japanese anime movies will also be taken up, the history of Japanese animation will be surveyed, and a comparison will be attempted with animated movies outside Japan including those of the Disney company, which are the most widely known.

【講義計画】

By focusing on a specific theme and work each time, the lectures will undertake a detailed study of Miyazaki Anime. The course will not only examine the contents of the various works, but will also take up such topics as the historical background to the movies, the critical evaluation they received, and the reaction of audiences worldwide.

Movies examined will include:

- Miyazaki Works: “Nausicaä of the Valley of the Wind”, “My Neighbor Totoro”, “Princess Mononoke”, “Spirited Away” etc…
- Other Anime Productions: “Haku-ja den”, “Akira”, “GHOST IN THE SHELL”, “Pokemon”, etc.

【成績評価の方法】

Class Work+Term Paper

【教科書】

There will be no textbook. Readings will be introduced during the course.

【参考文献】

Helen McCarthy: Hayao Miyazaki: Master of Japanese Animation: Films, Themes, Artistry (1999)

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
キリスト教学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	滝 澤 武 人

【講義概要・学習目標】

イエスという偉大な一人の人間の歴史的な姿を学問的に追いつめていくことがこの講義の目標です。私の「世界市民－キリスト教I」という科目はイエスやキリスト教への入門であり、この科目はそのイエス理解をさらに深めていくものです。もちろん、この科目だけを受講してもまったく問題はありません。

イエスはまさしく「現場の人」でした。さまざまな現場へと出て行き、さまざまな人々と出会い、さまざまな活動を展開しました。イエスの仲間となったのは、その時代の「貧しい者」「小さい者」「弱い者」「罪ある者」「穢れた者」たち、すなわち、社会の最下層・最底辺で苦しんでいた人々でした。

イエスの有名な言葉のほとんどすべてが、そのような「貧困と差別」「病氣と飢餓」「差別と抑圧」という厳しい現場の中から語られたものなのです。「求めよ、さらば与えられん！」も「右の頬を打たれたら、左の頬も向けよ！」も「汝の敵を愛せよ！」も、すべて現場で発言されたものです。現場におけるきわめて現実的な発言であったからこそ、2000年の時を隔ててもなお、驚くほど新鮮で豊かな感動と生命力が宿っているのでしょう。イエスの言葉は現代でもなおお生きているのです。

イエスを歴史的に追求するためには、かなり慎重な手続きをふまねなければなりません。イエス自身が自分で本を書き残したわけではないからです。果たしてどれが本当のイエスの言葉なのか、どのような状況の中で誰に向かってどういうつもりで語ったものなのか、しっかりと判断しなければなりません。それによって自分自身のイエス像をつかんでほしいと思います。

真面目な学生諸君の熱心でねばり強い受講を大いに期待しています。世界の古典中の古典である聖書と偉人中の偉人であるイエスと真正面から格闘することによって、得るところもきっと大きいと思います。もちろん、「信仰」の有無とはまったく関係がなく、誰でも自由に受講できます。

【講義計画】

私の著書『イエスの現場～苦しみの共有』に基づいて講義します。

【成績評価の方法】

試験 (80点)・レポート (20点) の予定です。最初の授業時間に説明しますので、必ず出席してください。

【教科書】

滝澤武人『イエスの現場～苦しみの共有』(世界思想社)

福音書のテキストを自分自身でしっかりと「読む」ことが中心的課題ですので、できれば『新約聖書』を毎時間持参してください。

【参考文献】

荒井献『イエスとその時代』(岩波新書)

田川建三『イエスという男』(作品社)

大貫隆『イエスという経験』(岩波書店)

【備考】

<02～07生>

共通自由科目として SS生は対象外

SS生は学科教育科目

科 目 名			
キリスト教史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	伊 藤 高 章

【講義概要・学習目標】

キリスト教との関わりで展開された人類の歴史について概観する。特に、その制度の展開、聖典の役割、文化との関係を中心テーマとする。これらを通して、現代世界が抱える諸課題にキリスト教がどのように取り組む可能性があるのかを探る。

【講義計画】

以下のテーマを含む

1. 宗教と現実社会
2. 諸宗教とキリスト教
3. 宗教とスピリチュアリティ
4. キリスト教の国家観とその歴史
5. キリスト教の福祉観とその歴史
6. キリスト教の戦争観とその歴史

【成績評価の方法】

1. 最低20回の出席
2. 3本のブックレポート
3. 学期末試験

【教科書】

『聖書』

【参考文献】

授業で指示する。

科 目 名			
銀行論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

銀行の基本的な機能を理解したうえで、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実践的に検証する。特に、1980年代以降の金融自由化と国際化の中で、日本の経済政策と金融政策がいかに変化してきたのか、日本の銀行はどのような行動をとってきたのか、その経済的影響はどんなものであったのかを検証・考察する。更に、バブル経済における経済政策と金融政策、銀行の行動を検証した上で、不良債権問題とその持つ意味について考察する。また、金融市場におけるリスクの増大、自己責任原則の拡大に鑑み、金融取引のリスクとその意味について学習する。加えて、現在進行している市場型間接金融システムの内容についても学習する。

【講義計画】

以下の項目につき、銀行と金融機関を巡る問題点を探求する。

1. 銀行の仕組みと役割、金融政策における銀行機能の位置づけ
2. 金利規制下での実体経済と銀行機能の関係
3. 金融自由化と銀行経営の変化、公的金融との差別化
4. リスク・マネジメントとしての銀行の役割
5. バブル期の金融政策と銀行行動、及びその実体経済への影響
6. バブル崩壊後の金融危機問題
7. ゼロ成長下での銀行機能のあり方と銀行経営の展望
8. 新たな金融システム（市場型間接金融）の仕組み

【成績評価の方法】

試験による

【教科書】

後日指定する（生協にて販売予定）

【参考文献】

- 鹿野 嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
 西村 吉正「日本の金融制度改革」（東洋経済新報社）
 津田 和夫「現代銀行論入門」（経済法令研究会）
 堀内 昭義「日本経済と金融危機」（岩波書店）

か
行

科 目 名			
金融論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	木 村 二 郎

【講義概要・学習目標】

電子マネー、景気回復と金融政策正常化、金融グループの再編など、貨幣・金融に関するニュースを絶えず私たちは見聞きする。このような現代の経済社会を理解する際に、貨幣・金融に関する知識や理論は必要不可欠である。この講義では、貨幣・金融に関する基礎理論、現代金融と日本経済、情報化・グローバル化と現代金融を3つの柱にして解説していく。貨幣・金融に関する理論・政策・制度・歴史を日本経済と世界経済の新しい動向を踏まえて、出来るだけ分かりやすく講義する予定である。学習目標は、新聞・テレビなどの経済ニュースが簡単に理解できるような基礎的な力を養い、経済社会についての見識を持てるようになることである。

【講義計画】

テキストに沿って、第I部「現代金融の基礎」を10回、第II部「現代金融と日本経済」を10回、第III部「情報化・グローバル化と現代金融」を8回に分けて講義を進める予定である。また、適宜小テストを実施して、理解度を確認する。

【成績評価の方法】

学年末試験を基本に据えたうえで、授業時間に実施する小テストを加味して総合的に評価する。

【教科書】

川波洋一・上川孝夫編『現代金融論』有斐閣ブックス、2004年。

【参考文献】

関根猪一郎・木村二郎・大島重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年。
日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2004年。
三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門（2007年度版）』日本経済新聞社、2007年。

科 目 名			
ケアマネジメント			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	川 井 太加子

【講義概要・学習目標】

講義では、利用者の自立支援に向けた目標指向型プランについて、要介護等高齢者の機関や在宅で活用されているチャートを利用して、ケアマネジメントの手法や過程を、講義・演習を交えて学習する。事例については、実践現場で活躍されている専門職を招いて具体的なケアマネジメントについて学ぶ。

【講義計画】

- 1、オリエンテーション ケアマネジメントとは何か、その必要性
- 2、ケアマネジメントの援助過程（1）
- 3、ケアマネジメントの援助過程（2）
- 4、ケアマネジメントと家族支援
- 5、地域における在宅生活支援
- 6、インフォーマル社会資源
- 7、介護保険におけるケアマネジメント
- 8、介護予防ケアマネジメントについて
- 9、福祉施設におけるケアプラン
- 10、ケアマネジメント（事例1）高齢者
- 11、ケアマネジメント（事例2）障害者
- 12、ケアマネジメント（事例3）精神障害者
- 13、サービス担当者会議、福祉・医療・保健の連携について
- 14、まとめ
- 15、まとめ

【成績評価の方法】

授業への参加度、出席、レポートにより総合的に評価します。

【教科書】

特に指定しません。

【参考文献】

ケアマネジメント論（全国社会福祉協議会出版）
ケアマネジメント（中央法規）

科 目 名			
経営学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4単位	村 上 伸 一

【講義概要・学習目標】

この講義は「初めて経営学を学ぶ」皆さんや、「経営学再入門」を志す皆さんのために展開されます。

多くの皆さんは卒業後、会社や官公庁などに就職したり、あるいはベンチャー企業を起業したり、NPOを立ち上げたりするでしょう。しかし、あなたは会社や官公庁、NPOなどの組織について、高校生よりもどれくらい多くそして深く知っていますか？

現代社会は膨大な数の組織から成立しています。この講義では、現代産業社会の構成に不可欠な企業を主たる考察対象にして、組織の本質、組織の運営（経営管理）、組織の戦略について、主に日米のビジネス・ワールドをビデオなども活用して概観しながら、基礎的な考察を進めていきます。

好むと好まざるとにかかわらず、この世に生を受けた以上、私たちはこの組織社会を生き抜いていかなければなりません。経営学の基礎を学ぶことは、現代社会人の基本的教養を身につけることになると私は確信しています。学習においては幅広く知識を身につけることよりも、できるだけじっくり考えることを重視する予定です。そして、何よりも知的なおもしろさを感じていただく。これが当面の最大の学習目標です。

【講義計画】

オリエンテーション

イントロダクション：この講義の構成と基本的視座

1. 現代産業社会に生きる私たちと組織
2. 経営と経営学
3. 組織とは何だろうか
4. 組織はどのように経営管理されているのだろうか
5. 組織の戦略とは何か

コンクルージョン

(時間の関係で一部スキップすることがあります。)

【成績評価の方法】

試験成績により評価します。ビデオや教科書を利用して、ミニレポートを講義中に書いていただき、それを評価に若干加える可能性があります。

【教科書】

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂4版）』創成社、2007年。

【参考文献】

適宜紹介します。

科 目 名			
経営学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2単位	岸 本 裕 一
02	秋学期	2単位	岸 本 裕 一
03	秋学期	2単位	谷 口 照 三
04	秋学期	2単位	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

経営学は、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要件にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。そこで、この講義では、「桃山学院大学での経営学教育」を意識し、すべての学生諸君が経営学への関心とそれを学びたいという意欲を持てるように、経営学の基礎を共に学んでいくことにしたいと思います。そこの課題は、二つあります。第一は、経営学部で開設している諸科目のうち経営学・商学関係科目に関連する基本的な、また現在話題になっている事柄、問題を、かいつまんで易しく解説し、またそれを巡って共に議論し、それぞれの科目について大まかなイメージが持てるようにすることです。第二の課題は、それらと本学の教育理念である『「世界の市民」の育成』との関連を共に考え、これから桃山学院大学経営学部で意味のある勉強をしていくための基盤である「各自の問題意識」を形成していくことです。今一つ、重視したいことがあります。それは、二つの課題と密接に関連することですが、「経営学を学ぶためになぜ英語が必要なのか」、ということです。この講義の特徴を別の表現で言うならば、本学の教育理念である『「世界の市民」の育成』と今述べた「経営学を学ぶためになぜ英語が必要なのか」を縦糸とし、経営学の種々の構成内容を横糸として、あなた方に必要な、固有の一枚の「布」を織り込んでいくことを意図している、となります。

この講義を履修し終わった人が、自らの判断で積極的なキャリア形式（将来「生きていく」ために向けた能力・経歴形式）に進んでいけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標なのです。

【講義計画】

配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出て、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけて下さい。また、積極的に発言するようにして下さい。

1. ガイダンスー経営学は21世紀の学問であるー
2. 「桃山学院大学の教育理念」と経営学教育
3. 「地球破壊」と環境経営
4. 株式会社とM&A
5. 顧客満足と市場創造
6. 「ホワイトカラー・エグゼンプション（White-collar Exemption）」と「仕事と生活のバランス（Work-Life Balance）」
7. 「プラン→ドゥーシー（Plan→Do→See）」と社会情勢の変化ー古くて新しい管理原則を考えるー
8. リスク社会（Risk Society）とリスク・マネジメント（Risk Management）
9. グロバリゼーション（Globalization）と国際経営
10. 企業不祥事とビジネス・エシックス（Business Ethics）
11. CSR（Corporate Social Responsibility）と経営学の未来
12. 「経営学を学ぶためになぜ英語が必要なのか」
13. 試験答案の作成指導および試験
14. 試験の講評と今後の展望

【成績評価の方法】

出席状況、課題レポート、学期末の試験などによって、総合評価します。

【教科書】

テキストは使用しないけれど、補助テキストとして本学の経営学部において設置されているいくつかの科目の概要をまとめた資料があり、それを配布します。また、テーマに関する資料を毎回配布します。

【参考文献】

随時指示します。

科 目 名			
経営学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4単位	野 田 俊 範

【講義概要・学習目標】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたことは事実である。

本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、その社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。

ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

【講義計画】

- I. 経営学史の方法
 1. 経営学史研究の意義
 2. 経営学史研究の課題
- II. ドイツ経営学の発展
 1. 私経済学の成立
 2. 経営経済学の確立
 3. 経営社会学の成立
 4. 経営経済学の展開
 5. 転換期の経営経済学
- III. 現代のドイツ経営学
 1. ドイツ経営学の新展開
 2. ドイツ経営学の意義と課題

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

若尾祐司／井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房、2005年。
 海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。
 面地豊『経営社会学の生成』千倉書房、1998年。
 その他、必要に応じて適宜指示する。

科 目 名			
経営学総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4単位	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

経営学は、人間生活と密接に関係している、いわゆる企業を主たる対象に研究してきた。この企業の具体的なイメージとしては、「何々会社」を思い描けばよい。われわれが住むこの世界には、様々な会社があり、それらの会社が人間の生活に必要な様々な物やサービスを提供している。経営学は、人間の生活に必要な様々な物やサービスとは何か、またそのような物やサービスを提供するために必要で十分な条件や物事および考え方とは何かを明らかにすることをめざしている。

その際、いくつかの点を考慮する必要がある。とりわけ、以下の2つの視座ないし態度が重要である。まず第1に、人間生活やそれに応答する企業の活動は、時代によって変化する面と変化しない面があるので、それらを峻別し、その上でそれらの関係を考えていかなければならない。企業の活動は、多くの人々の働きや社会的な制度および自然環境に支えられたり、それらに制約を受ける。そればかりでなく、企業の活動はこのような諸環境に大きな影響を与える。従って、次に考慮しなければならない点は、それらの諸環境と企業との関係を、「プラスの影響とマイナスの影響」の双方からとらえていく態度である。

本講義では、この様な2つの視座ないし態度の下に、経営学の基礎と概略、および経営学を学ぶことの意味が理解できるように、進めていきたい。

【講義計画】

1. 生活を支える企業 (第1, 2回)
2. 環境の変化と企業経営 (第3, 4回)
3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義 (第5, 6回)
4. 企業は誰が経営し、動かしているのか (第7, 8回)
5. 企業は何をめざして活動しているのか (第9, 10回)
6. 企業が利用できる経営資源にはどのようなものがあるか (第11, 12回)
7. 企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか (第13, 14回)
8. 企業の組織はどのように動いているのか (第15, 16回)
9. 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか (第17, 18回)
10. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか (第19, 20回)
11. 組企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか (第21, 22回)
12. 企業はどのようにして人材を活用するのか (第23, 24回)
13. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか (第25, 26回)
14. 21世紀的文脈と経営学の新しい視座 (第27回)
15. 経営学の21世紀的課題 (第28回)

【成績評価の方法】

不定期小テスト、レポートおよび春学期末試験の総合評価。

【教科書】

片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺 峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文真堂、2000年。

【参考文献】

その都度必要に応じ提示する。

【備考】

<02～07生>
 共通自由科目として、B生対象外
 B生は学科教育科目

科 目 名			
経営学総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4単位	片 岡 信 之

【講義概要・学習目標】

この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。

したがって、本講義の目標もその点におかれることとなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするという事です。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。

経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思います。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。

ノートを必ずとってください。この講義の目的の一つは、今後4年間に話を聴いて要点を掴み、ノートにとるという訓練を1年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい、講義中にノートをきちんととっていたかどうかを評価点として加味します。

【講義計画】

テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。

1. 生活を支える企業
2. 環境の変化と企業経営
3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義
4. 企業は誰が経営し、動かしているのか
5. 企業は何を目指して活動しているのか
6. 企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるか
7. 企業はどのようにして経営し、組織を作るのか
8. 企業の組織はどのように動いているのか
9. 企業はどのように競争し、また協力し合っているのか
10. 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
11. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
12. 企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
13. 企業はどのようにして人材を活用するのか
14. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか

【成績評価の方法】

①期末テスト結果によるほか、②講義ノートチェック（出席してしっかり要点のノートを取っているかどうか）、③講義中の小テストを受けているかどうか、などによる総合評価とします。

概ね期末テスト結果6割、その他4割の比重で評価をします。特にノートを重視しますが、あきらかに他人のノートを丸写ししただけと判定できるものについては、写した方と写させた方の両方のノートを採点対象から除外します。

講義はテキストに沿ってしますが、テキストに書いていないことも当然話しますから、試験直前にテキストを覚えるだけでは、十分ではありません。なお、ノートは翌年度の新学期に返却します。卒業年次生には、卒業式当日、申し出により返却します。

【教科書】

片岡信之、斎藤毅憲、高橋由明、渡辺峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学 Ver. 2』文真堂、2006年、2500円。

【参考文献】

特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、平日頃からすき間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。つぎのいずれかが、値段も手頃で良いでしょう。難易度は1が易しく、2,3,4はほぼ同レベルです。

1. 片岡・齋藤・佐々木・高橋・渡辺編『ベシック経営学辞典』中央経済社、2600円
2. 吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
3. 二神恭一編『新版 ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円
4. 経営学史学会編『経営学史事典』文真堂、3000円

【備考】

<02~07生>

共通自由科目として、B生対象外 B生は学科教育科目

科 目 名			
経営学特別講義－国際財務会計基準			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	柴 理梨亜

【講義概要・学習目標】

International Financial Reporting Standards are now considered worldwide as global standards for international financial reporting. In this course we will study about the importance of these standards, how they started and how they became to be accepted worldwide. We will also discuss about the contents of some of the main standards.

【講義計画】

1. International Accounting
2. International Accounting Standards Committee (IASC) and International Accounting Standards
3. Process of Restructuring IASC
4. International Accounting Standards Board (IASB) and International Financial Reporting Standards
5. Convergence of Accounting Standards Worldwide

Discussions and research presentations are scheduled on the above themes.

【成績評価の方法】

The final marks will be decided according to the work done in class, presentations, reports and tests performed.

【参考文献】

-International Financial Reporting Standards (IFRSs), International Accounting Standards Board.

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経営学特別講義－日本企業のグローバル戦略			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

This class is especially for exchange students who are interested in Japanese firms and their business strategies in the global economy.

In recent years business environment around Japanese firms is rapidly changing, and globalization is more increasing.

The aim of this course is to examine several problems that contemporary Japanese companies have been faced with in the changing business environment and the global economy.

【講義計画】

Lectures will cover following topics:

Doing business across cultures

The role and functions of "Sogo-Shosha"

What makes up a successful businessperson.

The Fundamentals of Credit management and Debt Collection.

Challenge to "Direct-Export" by small-sized manufacture.

Integrity and Flexibility in Global Business.

The progress and diversification of Japanese International Trade.

Textile business in HongKong.

Joint Venture business in China.

Intellectual Property Right.

Revitalization of Osaka Economy.

Lectures are given by guest speakers who have respectively large experiences in big Japanese general trading companies.

【成績評価の方法】

Students should attend every class and submit a paper each month.

Assessment will be based on classroom participation and papers.

Classroom participation 30% Papers 70%

【教科書】

No textbook.

【参考文献】

Handouts will be provided.

【備考】

Lectures are conducted in English.

インテグレーション科目

英語による授業です

科 目 名			
経営学特別講義－日本的経営の変遷			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2単位	井 口 良 樹

【講義概要・学習目標】

Management styles of Japanese companies, formed during the period of high economic growth since the latter half of 1960s, changed a lot in the period of economic bubble of the latter half of 1980s and the bubble-burst period of 1990s. We are going to study how the so-called "Japanese Management" has transformed into what we see today in the 21st century.

【講義計画】

We are going to study various features of major companies, which played an important role in the economic development of the post-war Japan, including "management philosophy," "lifetime employment" and "intra-company labor union."

【成績評価の方法】

Preparing a report on certain features of "Japanese Management" required.

【参考文献】

"21 st-Century Japanese Management" written by James C. Abeggien, Published by Palgrave Macmillan

【備考】

英語による授業です

科 目 名			
経営学特別講義－日本の経営実務			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2単位	ハク 大 テ 大 ヨシ 栄

【講義概要・学習目標】

From the experience of accounting, auditing and tax profession, we have faced a lot of comparative Japanese business practice with western countries. In this lecture, we demonstrate some unique cases of Japanese accounting and tax practice that may be useful to understand not only Japanese accounting and tax, but also Japanese business culture

【講義計画】

Although there are few differences in theory between Japanese accounting and international accounting; however, in practice there are still some big differences in how to apply accounting principles. We introduce some examples of such differences with basic concepts as follows:

- 1 Accounting Practice
 - 1.1 Accounting principles
 - 1.2 Basic financial statements
 - 1.3 Reporting
- 2 Auditing Practice
 - 2.1 Auditing principles
 - 2.2 Responsibility
 - 2.3 Independence

Japan is well known as having relative high corporate income tax rate on corporations.

Currently the effective corporation income tax rate can be calculated at 40% -42% in the aggregate. Most of other OECD member countries in North America and in Europe set the effective tax rate in the range of 30% -35%.

The lecture touches on how the Japanese companies handle the tax compliance work and what sort of management considerations are taken to control the tax cost.

- 3 Tax Practice
 - 3.1 Introduction to the outline of income tax system for corporations in Japan
 - 3.2 Tax administration by the national tax authorities
 - 3.3 Tax planning to control tax cost by the management of taxpayer

【成績評価の方法】

Grades will be based on attendance, participation in class discussions, reports submitted and test results.

【教科書】

Handout materials will be provided at each class

科 目 名			
経営学特講－英文簿記会計			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	ハク 大 テ 大 ヨシ 栄

【講義概要・学習目標】

ビジネス活動の国際化により、英文による簿記・会計の理解が不可欠となっている。英文簿記会計といっても、単に財務諸表の日本語表記を英語表記に置き換えるだけではなく、国際的な会計基準と日本の会計基準との差異についての理解も必要となる。

国際的な会計スキルを判定するための検定試験が東京商工会議所を中心として実施されており、毎年数多くの受験生を出している。受験者は、学生のみならず、ビジネス関係者の間でも、今後、急増していくものと予想される。

本講義は、このBATC（国際会計検定）試験に焦点を合わせ、受講生諸君の国際ビジネス能力の向上に寄与することを目的として開講されている。講義を担当するのは、国際業務に関わってきた公認会計士の皆さんである。毎時間、講義50分、演習20分、解説10分、質疑応答10分を標準として進める予定である。簿記についてのある程度の事前知識が必要であるので、「商業簿記」を履修済みであること、ないし日商簿記検定試験3級合格を履修条件としている。国際ビジネスに関心のある学生は、本講義とあいまって、経営学特講（企業情報の開示と税制：日本）を受講することを勧める。

【講義計画】

1. 講義内容説明 / Basic concepts of accounting and bookkeeping
2. Transaction of Journal entries
3. Journals and Ledgers
4. Trial Balance
5. Adjusting Entry I
6. Adjusting Entry II
7. Accounting for inventory and Cost of goods sold
8. Closing Entries
9. Financial Statements and Worksheets
10. Generally Accepted Accounting Principals
11. Internal Control
12. 予備日／総復習テスト
13. 予備日／総復習テスト
14. (期末試験)

【成績評価の方法】

毎回実施するミニテスト、学期末テストの成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

BATIC公式テキスト『Subject 1』東京商工会議所
BATIC問題集『Subject 1』東京商工会議所

【参考文献】

講義中に適宜指示する

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－企業人に学ぶ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋・集中コース	2単位	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

この講義は、諸君の中に眠っているかもしれない能力やパワーに諸君が自ら気付き、力を発揮してもらうことを第一の目的としている。主な講義内容は、①企業の実態について学ぶこと、②働くことについて具体的なイメージを描くこと、③職場における問題の発見とそれへの対処についてまなぶこと、④企業の方と上手なコミュニケーションをとること等である。講師は、現在会社で重要な働きをしている本学のOBを中心とし、受講資格は3回生に限定している。授業は小人数で行われ、業界や企業に関する知識や話題提供のほか、課題作成、グループディスカッション等を中心にすすめられる。また、講師との自由な対話も予定している。

講義は、原則的に土曜日の午後に、5回実施する予定である。したがって1回の授業は、通常の3回分を行う。この講義は、真剣に自らの将来について考え、やる気をもって進んでいく学生のみを対象とする。したがって、作文や面接等の事前の審査を行う場合もある。

【講義計画】

- (1) 授業は合計5回実施：実施日については、後日掲示する。
- (2) 実施曜日および時間：土曜日の2. 3. 4時限を予定している。
- (3) 事前審査：6月中頃。レポートや面接等を行うこともある。
- (4) 講師：後日掲示する。

【成績評価の方法】

出席、受講態度、レポート等を総合的に判断する。

【教科書】

出席、受講態度、レポート等を総合的に判断する。

【参考文献】

適宜指示する。

【備考】

6月中頃に詳細を掲示するので、教務課掲示板に注意しておくこと。
インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－国際ビジネス・変化と対応			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2単位	北 條 弘 司

【講義概要・学習目標】

日本企業は業績の多くを海外に依存している。近年、国と業界を超えた競合の拡大、資本移動の質的な転換、国と国の経済施策の先陣争い、など国際ビジネス環境は大きな変化が見られ、これらの変化に対応し、新しい市場開拓とビジネス推進が可能な人材が求められている。

この講義では、海外販路の開拓・販売促進・現地法人経営 などを実践的に学び、経営学の理論やマーケティングの定説が実際のビジネス活動に組込まれている状況の理解を進め、国際ビジネス推進上の課題対応の視点と課題対応能力を培う講義としたい。

理解を深めるため、調査データの活用と企業の国際事業活動の事例、国際ビジネスに関係する時事問題も適宜取り上げ解説を加えたい。

【講義計画】

1. 国際ビジネスの基礎：
 - *オリエンテーション、日本企業の国際化の課題 第1回
 - *日本企業の国際展開、貿易の現状、対外直接投資 第2回
 - *日本の国際競争力、失われた10年、大競争時代の対応 第3回
2. 国際ビジネス環境
 - *日本企業の海外事業活動、国際経営組織 第4回
 - *海外拠点の組織運営と経営管理体制 第5回
 - *事例研究：中国進出した日系企業の事業実態 第6回
 - *日本企業の国際展開の状況、国際人事 第7回
3. 異文化接触と国際経営
 - *異文化経営とコミュニケーション・コンテクスト 第8回
 - *企業文化と海外拠点の特性、企業文化類別 第9回
4. 日本企業の国際マーケティング展開
 - *国際市場への参入、グローバル・マーケティング 第10回
 - *事例研究：日本企業の輸出マーケティング 第11回
5. 経営資源管理
 - *国際経営管理、国際財務連結、外国為替（マック指数） 第12回
 - *国際人的資源管理、現地法人の業績評価、海外駐在員 第13回
 - *講義総括（予備） 第14回
 - *期末試験 第15回

【成績評価の方法】

筆記試験：60%、レポート：40% を基準に総合評価

【教科書】

教科書は使用しない。必要資料は講義時に配布する。

【参考文献】

テキストブック国際経営（新版）山崎 清・竹田志郎編 有斐閣
ブックス
グローバル国際経営論 麻殖田 健治 ナカニシヤ出版